

調査研究業務受託（酒田市）報告書  
「令和2年度 酒田市観光に関する調査研究」

三木 潤一 （東北公益文科大学 公益学部）  
小嶋 健太 （関西大学 経済学部）  
川崎 雄二郎（京都先端科学大学 経済経営学部）

- 1 はじめに
  - 2 アンケート調査内容
    2. 1 アンケート調査実施方法
    2. 2 アンケート調査票
    2. 3 データ集計方法
  - 3 アンケート調査集計結果
    3. 1 旅行者の個人属性
    3. 2 旅行の特徴
    3. 3 酒田市内における消費単価
    3. 4 満足度・再訪意向
  - 4 観光地間の移動に関する分析
    4. 1 旅行者の訪問傾向・訪問地点の数
    4. 2 年齢別の訪問傾向・訪問地点の数
    4. 3 「家族」グループにおける世代構成別の訪問傾向・訪問地点の数
    4. 4 「友人・知人」グループにおける世代構成別の訪問傾向・訪問地点の数
    4. 5 世帯年収別の訪問傾向・訪問地点の数
    4. 6 同行グループ構成別の訪問傾向・訪問地点の数
    4. 7 主な交通手段別の訪問傾向・訪問地点の数
    4. 8 最初に訪問する地点・最後に訪問する地点
  - 5 離散選択モデルに基づく回帰分析
    5. 1 モデル
    5. 2 変数の説明
    5. 3 分析結果と含意
  - 6 まとめ
- 参考文献

## 1 はじめに

本受託研究の目的は過年度から引き続き、観光産業に関する市場に焦点を当て、酒田市民所得の向上につながる地域振興政策を提言することである。この目的を達成するため、酒田市を訪れる観光客に対するアンケート調査を本年度も新たに方法や内容を変更して実施し、とりわけ実証産業組織論の分野で発展してきた離散選択モデルに基づく手法を応用するなどして、酒田市においてどのような政策介入が観光産業に資するかについて検討する。

## 2 アンケート調査内容

### 2. 1 アンケート調査実施方法

本受託研究におけるアンケート調査は、酒田市を訪れた観光客を対象として、筆者が作成に関与したアンケート調査票に基づき、酒田市企画調整課が調査主体となって実施したものである。調査期間は令和2年10月1日～令和2年11月30日である。調査方法等は、次の通りである。

#### 【調査方法】

調査票を調査場所に配置し、観光客が帰宅後に回答を行い、返信用封筒を用いて酒田市に郵送する。ただし、山居倉庫（酒田観光ガイド協会）においては、直接調査票を配布し、観光客が帰宅後に回答を行い、返信用封筒を用いて酒田市に郵送することを依頼する。なお、返信用封筒は後納郵便で酒田市が郵送料を支払うため、回答者の金銭負担は生じない。

また、調査の回答数をあげるため、回答者のうち、抽選で50名に景品（つや姫2kg）を贈呈する。

#### 【調査票配布枚数】

2000部

#### 【調査回答枚数】

462部

#### 【調査票配布場所】

ホテルイン酒田 300部・ホテルα1酒田 300部・ホテルリッチ&ガーデン酒田 300部・さかたセントラルホテル 150部・酒田グリーンホテル 150部・若葉旅館 150部・地蔵の湯旅館 150部・山居倉庫（酒田観光ガイド協会） 500部

アンケート調査票は、2. 2節（次頁以下）に示す通りである。また、本アンケート調査結果の利用については、東北公益文科大学の研究倫理審査において、承認の判定を受けている。

## 2. 2 アンケート調査票

# アンケート調査へのご協力をお願い —令和2年度酒田市観光動向調査—

酒田市では、今後の観光振興の参考資料とさせて頂くため、酒田市における観光の動向について調査を行っています。今回の旅行の訪問先、旅行に使った費用等についてお聞きするものです。何卒ご理解頂き、ご協力下さいますようお願い申し上げます。

ご協力いただいた方に、抽選で50名様に庄内産米（つや姫）2kgを発送いたします。（当選は発送をもって替えさせていただきます）

調査主体：酒田市企画調整課／電話番号：0234-26-5704／メール：kikaku@city.sakata.lg.jp

### ご記入にあたってのお願い

- この調査は、今回のあなたの旅行についてお伺いするものです。
- 各質問に対して、あてはまる選択肢の番号を○で囲むか、もしくは、数字をご記入下さい。
- あてはまる選択肢の番号を○で囲む場合は、質問の文末の「1つだけ」「複数回答可」に注意の上、ご記入下さい。
- 選択肢の「その他」をお選びの場合は、（ ）内にその内容を具体的にご記入下さい。

Q1 今回の旅行の主要な目的は何ですか。 ※1つだけ

- ①ビジネス ②観光 ③買い物 ④イベント参加 ⑤食事 ⑥帰省・知人訪問  
⑦その他（ ）

Q2 今回の旅行は一人旅でしたか？

- ①はい（Q5へ） ②いいえ（Q3へ）

Q3 Q2で「②いいえ」と回答された方にお聞きします。今回の旅行に同行された方（あなたご自身以外）の人数を性別・年齢層別にお答えください。

男 性								
9歳以下	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上
人	人	人	人	人	人	人	人	人
女 性								
9歳以下	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上
人	人	人	人	人	人	人	人	人

Q4 Q2で「②いいえ」と回答された方にお聞きします。今回の旅行に同行された方はどのような方ですか？ ※複数回答可

- ①家族（夫婦・子供・親・兄弟・その他家族や親族） ②友人・知人  
③旅行業者等が販売するツアーパック ④職場・学校等の団体旅行 ⑤その他（ ）

Q5 今回の旅行は酒田市内のみの観光でしたか。

- ①はい ⇒酒田市での泊数をご記入ください。

②いいえ ⇒訪問した地域（山形県内なら市町村名、県外なら県名）と泊数をご記入ください。

日帰りでの訪問した場合は「0泊」とご記入ください。

訪問した地域（山形県内）		泊数	訪問した地域（山形県外）		泊数
山形県	酒田市	泊	秋田県		泊
山形県	鶴岡市	泊	新潟県		泊
山形県	山形市	泊	宮城県		泊
山形県	尾花沢市	泊	福島県		泊
山形県	その他の市町村（ ）	泊	その他の都道府県（ ）		泊
山形県	その他の市町村（ ）	泊	その他の都道府県（ ）		泊
山形県	その他の市町村（ ）	泊	その他の都道府県（ ）		泊

Q6 今回の旅行で酒田市に滞在した時間を教えてください。

- ①0～1時間 ②1～2時間 ③2～3時間 ④3～4時間 ⑤4～5時間 ⑥5～6時間  
⑦6～12時間 ⑧12～24時間⑨24時間以上

Q7 今回の旅行を通して訪れた酒田市内の観光スポットを、このページ下部にある選択肢群のうちから訪れた順に番号で教えてください。 ※ 矢印「→」が足りなければ追加してご記入ください。

( → → → → → → → )

Q8 今回の酒田市での旅行の中で、訪問を考えたが交通の便の悪さを理由に行かなかった観光スポットはありましたか。

①いいえ

②はい ⇒そのような観光スポットが以下の選択肢群にありましたら番号で教えてください。

( ) ※ 複数回答可

●市街地エリア

1	山居倉庫（酒田夢の倶楽）
2	山居倉庫（庄内米歴史資料館）
3	本間家旧本邸
4	酒田市立資料館
5	旧鎧屋
6	舞娘茶屋相馬樓
7	山王くらぶ
8	海向寺（即身仏堂）
9	日和山公園
10	さかた海鮮市場・みなと市場
11	オランダせんべい FACTORY

●川南エリア

12	土門拳記念館
13	酒田市美術館
14	出羽遊心館
15	南洲神社
16	蔵探訪館 （初孫酒造資料館）

●鳥海山エリア

17	玉簾の滝
18	鳥海高原家族旅行村
19	湯の台温泉鳥海山荘
20	鶴間池
21	鳥海山湯の台登山口

●駅前・寺町エリア

22	本間美術館
23	浄福寺（唐門）

●その他エリア

24	八幡エリア （ゆりんこ、産直たわわなど）
25	眺海の森エリア （展望台、森の家など）
26	松山エリア （總光寺、松山文化伝承館など）
27	平田エリア （十二滝、アイアイひらたなど）
28	飛鳥エリア （とびしまマリンプラザ、釣り船など）
29	その他 （ ）

Q 9 今回の酒田市内における旅行を通して、観光スポットを巡る際に主に用いた交通手段を教えてください。 ※ 複数回答可

- ①自家用車または社用・公用車 ②レンタカー ③路線バス ④観光バス・貸切バス  
⑤タクシー・ハイヤー ⑥自転車 ⑦徒歩 ⑧その他 ( )

Q 10 今回の旅行全体を通して、居住地を出てから居住地に戻るまでの移動に主に用いた交通手段を教えてください。 ※ 複数回答可

- ①飛行機 ②鉄道 ③自家用車または社用・公用車 ④レンタカー ⑤路線バス・高速バス  
⑥観光バス・貸切バス ⑦タクシー・ハイヤー ⑧自転車 ⑨徒歩 ⑩その他 ( )

Q 11 今回の旅行における支出額を項目別に同行者の分も含めた総額でお答えください。

☞ ツアーパックの場合

(1) パック代金総額を記入し、それに含まれる内容すべてに○をつけてください。 ※ 複数回答可

総額： ( ,000 円) ※ 千円単位で答えてください(百円の位は四捨五入)。

内容： 交通費 宿泊代 飲食費 買物代 入場料・拝観料 その他(体験費用等)

(2) 下の表にパック代金に含まれない支出額をお答えください。

☞ ツアーパックでない場合

下の表に支出額をお答えください。 ※ 千円単位で答えてください(百円の位は四捨五入)。

	今回の旅行全体	うち 酒田市内
交通費	,000 円	,000 円
宿泊代	,000 円	,000 円
飲食費(昼)	,000 円	,000 円
飲食費(夜)	,000 円	,000 円
買物代	,000 円	,000 円
入場料・拝観料	,000 円	,000 円
その他(体験費用等)	,000 円	,000 円

Q 12 あなたは今回の旅行において、酒田市の情報をどこから入手されましたか。 ※ 複数回答可

- ①ガイドブック ②旅行専門雑誌 ③パンフレット ④新聞・雑誌 ⑤テレビ・ラジオ  
⑥家族・友人の話 ⑦旅行会社 ⑧観光案内所 ⑨インターネット(パソコンを経由)  
⑩インターネット(スマートフォン・携帯電話から)  
⑪SNS (Facebook / Twitter / Instagram / 人人網 など)  
⑫その他 ( )

Q 13 今回の旅行を終えて、全体としてどれくらい満足していますか? ※ 1つだけ

- ①たいへん満足している ②満足している ③不満である ④たいへん不満である

Q 14 今回の旅行を終えて、酒田市にどれくらい満足していますか? ※ 1つだけ

- ①たいへん満足している ②満足している ③不満である ④たいへん不満である

Q15 今回の旅行において酒田市のどの点に魅力を感じましたか？ ※複数回答可

- ①名所・旧跡 ②自然・風景 ③伝統文化 ④美術館・博物館 ⑤宿泊 ⑥街並み  
⑦街の清潔さ ⑧飲食 ⑨買物（お土産・名産品など） ⑩観光案内所での情報提供  
⑪公共交通機関 ⑫交通状況（道路の渋滞等）

Q16 再び酒田市を観光で訪れたいと思いますか？ ※1つだけ

- ①とてもそう思う ②そう思う ③あまり思わない ④まったく思わない

Q17 親しい友人に酒田市への観光を勧めたいと思いますか？ ※1つだけ

- ①とてもそう思う ②そう思う ③あまり思わない ④まったく思わない

Q18 あなたの性別、年齢を選んで下さい。 ※それぞれ1つだけ

性別： ①男性 ②女性

年齢： ①0～9歳 ②10～19歳 ③20～29歳 ④30～39歳 ⑤40～49歳  
⑥50～59歳 ⑦60～69歳 ⑧70～79歳 ⑨80歳以上

Q19 あなたの世帯の昨年の収入額を選んでください。 ※1つだけ

※自営業の場合は、売上高から必要経費を差し引いた金額を選択してください。

- ①収入なし ②1円～299万円 ③300万円～499万円 ④500万円～699万円  
⑤700万円～899万円 ⑥900万円～1,099万円 ⑦1,100万円以上

Q20 今回の旅行で、政府のGo To トラベルキャンペーンを利用されましたか。

- ①はい ②いいえ

———調査内容は以上です。ご協力、ありがとうございました。———

景品発送のため、以下の内容をご回答ください。

氏名： \_\_\_\_\_

郵便番号：〒 \_\_\_\_\_

住所： \_\_\_\_\_

電話番号： \_\_\_\_\_ ( \_\_\_\_\_ )

## 2. 3 データ集計方法

回収したアンケート調査票のデータ化においては二重入力を行い、突合の結果不一致となった内容については精査した。本節では、アンケート調査によって得られたデータの集計方法について、不規則な回答の処理を中心に説明する。

### ■同行者の属性

Q 4 では複数回答を許容したため、「①家族」と「②友人・知人」の両方を選択している人が少数いた。この場合は、回答者は友人・知人と一緒に旅行したとみなした。

また、「⑤その他」の回答の中に「仕事の同僚」、「上司」などの回答があったが、これらは「職場の人（仕事）」という新たなカテゴリーに分類した。

### ■支出額

Q 1 1 については、いずれかの項目で支出額を回答しているならば、無回答の項目は支出額を「0 円」とみなした。すべての項目が無回答である場合は、支出額が不明なものとして処理した。

### ■訪問した地域と観光地

Q 5 で酒田市内のみの観光であったかどうかを回答していない場合、酒田市以外の地域を訪問していなければ酒田市内のみの旅行とみなし、酒田市以外の地域に泊数の記入があれば（「0 泊」を含む）他地域にも旅行したとみなした。

酒田市の泊数が記入されていない場合、Q 1 1 で酒田市内の宿泊代について正の値を回答していれば、酒田市に宿泊したとみなした。ただし、泊数は不明のままとした。

Q 7 では、訪問した酒田市内の観光スポットを選択肢の番号で回答するよう求めているが、具体的な観光スポットを記入している場合があった。このうち、回答内容からエリアを特定できないものについては、「市内その他」という新たなカテゴリーに分類した。また、酒田市以外の地域の観光地であるにもかかわらず回答者が酒田市内にあると認識して記入しているものについては、「市外」として処理した。

### ■酒田市内における交通手段

Q 9 では酒田市内の観光地を巡る際に用いたすべての交通手段を尋ねており、図表 2-1 の通り、さまざまなパターンが存在した。これらのパターンから、酒田市内で利用された主な交通手段を特定して 7 つのグループに分けた。たとえば、自家用車または社用・公用車を用いているならば、他の交通手段を同時に利用しているとしても、主な交通手段は自家用車であると判断した。

また、「⑧その他」については、その回答内容から①～⑦のカテゴリーに分類した。

図表 2-1 酒田市内における主な交通手段

主な交通手段	Q9の回答						
	自家用車 または 社用・公用車	レンタカー	路線バス	観光バス・ 貸切バス	タクシー・ ハイヤー	自転車	徒歩
自家用車	○						
	○	○					
	○		○			○	○
	○				○		
	○					○	
	○						○
レンタカー		○					
		○			○		
		○			○		○
		○					○
路線バス			○				
			○		○		
			○		○		○
			○			○	
			○			○	○
			○				○
タクシー・ ハイヤー					○		
					○	○	
					○	○	○
					○		○
自転車						○	
						○	○
徒歩						○	

(注) 回答者が酒田市内で利用したすべての交通手段に○を付している。

### 3 アンケート集計結果

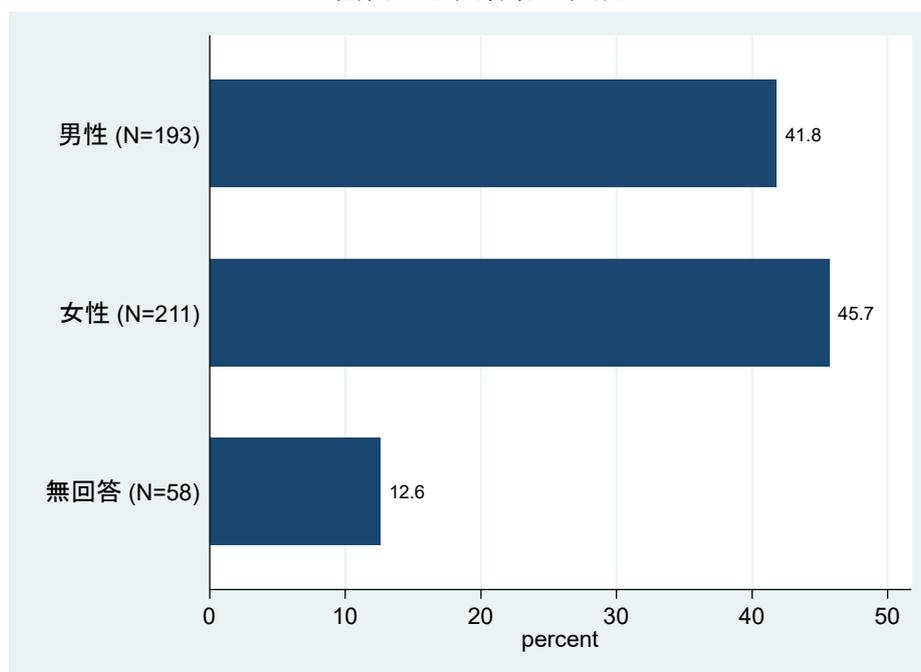
本章では、アンケート調査によって得られた集計データを基に酒田市観光の実態について、旅行者の個人属性、旅行の特徴、酒田市内における消費単価、酒田市への旅行に対する満足度等の順に説明する。

#### 3. 1 旅行者の個人属性

##### ■性別

アンケート調査に対する回答者の性別の分布は、男性が 41.8%、女性が 45.7%、無回答が 12.6%であった（図表 3-1）。

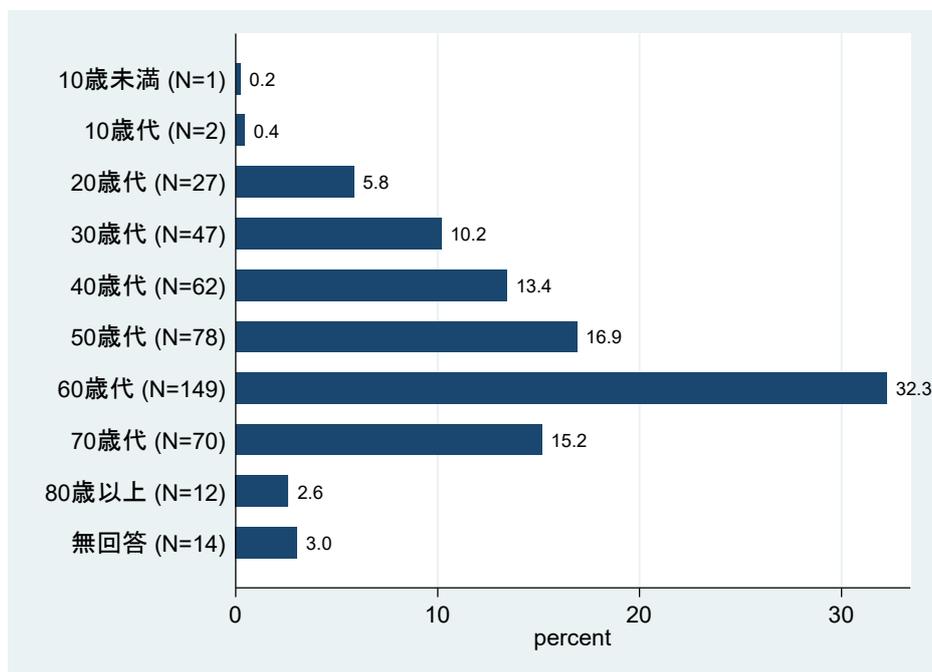
図表 3-1 回答者の性別



##### ■年齢

回答者の年齢層の分布は図表 3-2 の通りである。60 歳代が 32.3%で最も多く、次いで 50 歳代が 16.9%、70 歳代が 15.2%であった。50 歳以上の人が約 7 割を占めることになる。

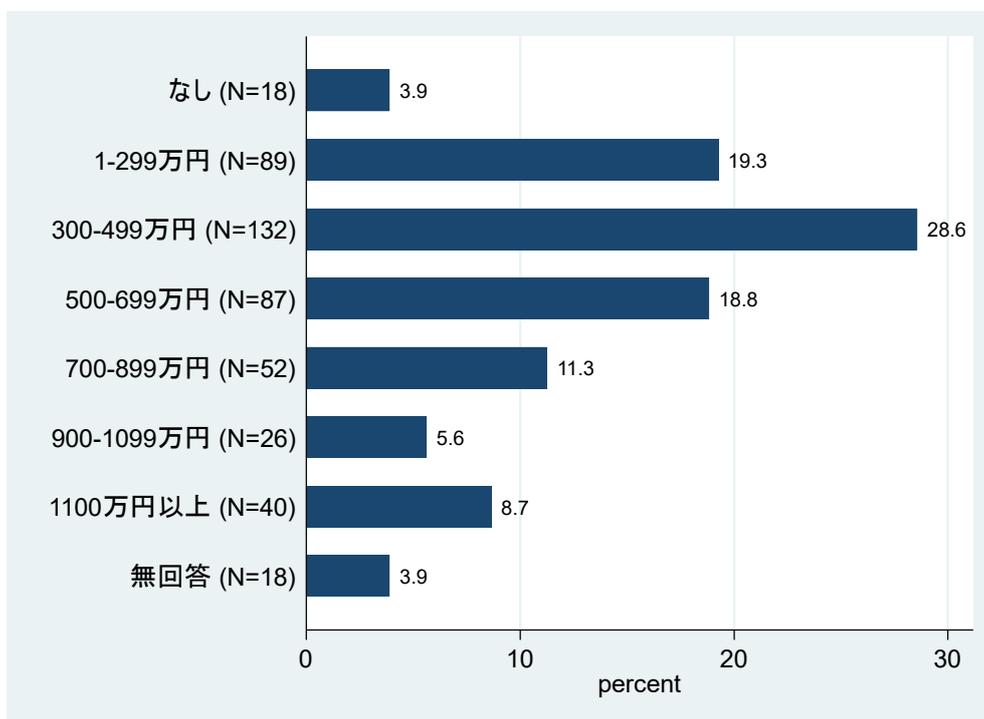
図表 3-2 回答者の年齢層



■世帯年収

回答者の世帯年収の分布は図表 3-3 の通りである。300 万円～499 万円が 28.6%で最も多く、次いで 1 円～299 万円が 19.3%、500 万円～699 万円が 18.8%であった。700 万円未満の世帯が約 7 割を占めることになる。

図表 3-3 回答者の世帯年収



### 3. 2 旅行の特徴

#### ■旅行の目的

旅行の主要な目的は図表 3-4 の通りである。調査票では単一回答を求めていたが、ごく少数ながら複数回答している場合があったため、主要な目的を示している。回答者のほとんどが観光を目的に酒田市へ旅行しており、ビジネスや帰省・知人訪問が目的であった人もいる。

図表 3-4 旅行の目的

	人数	(%)
ビジネス	40	8.7
観光	359	77.7
買い物	4	0.9
イベント参加	7	1.5
食事	12	2.6
帰省・知人訪問	33	7.1
その他	1	0.2
無回答	6	1.3
計	462	100

■同行者の有無・属性

同行者を伴った旅行であったかどうかについては、回答者の 75.3%が誰かと一緒に旅行しており、一人旅の人は 24.0%であった（図表 3-5）。また、同行者の属性については図表 3-6 に示している。家族と一緒に旅行している人が 66.0%と最も多く、次いで友人・知人と一緒に旅行している人が 19.5%となっている。

図表 3-5 同行者の有無

	人数	(%)
同行者あり	348	75.3
一人旅	111	24.0
無回答	3	0.7
計	462	100

図表 3-6 同行者の属性

	人数	(%)
家族	217	66.0
友人・知人	64	19.5
旅行業者等が販売するツアーパック	17	5.2
職場・学校等の団体旅行	23	7.0
職場の人(仕事)	8	2.4
計	329	100

■旅行の行先

旅行での行先については、回答者の 36.4%が酒田市内のみ、63.6%は酒田市以外にも旅行した。図表 3-7 は、行先が酒田市内のみであったかどうかと酒田市内に宿泊したかどうかとのクロス表である。これによれば、酒田市内のみの旅行であった人はどちらかといえば市内に宿泊しているが、酒田市以外にも旅行した人はどちらかといえば酒田市には日帰りで訪問したことが分かる。

図表 3-7 旅行の行先

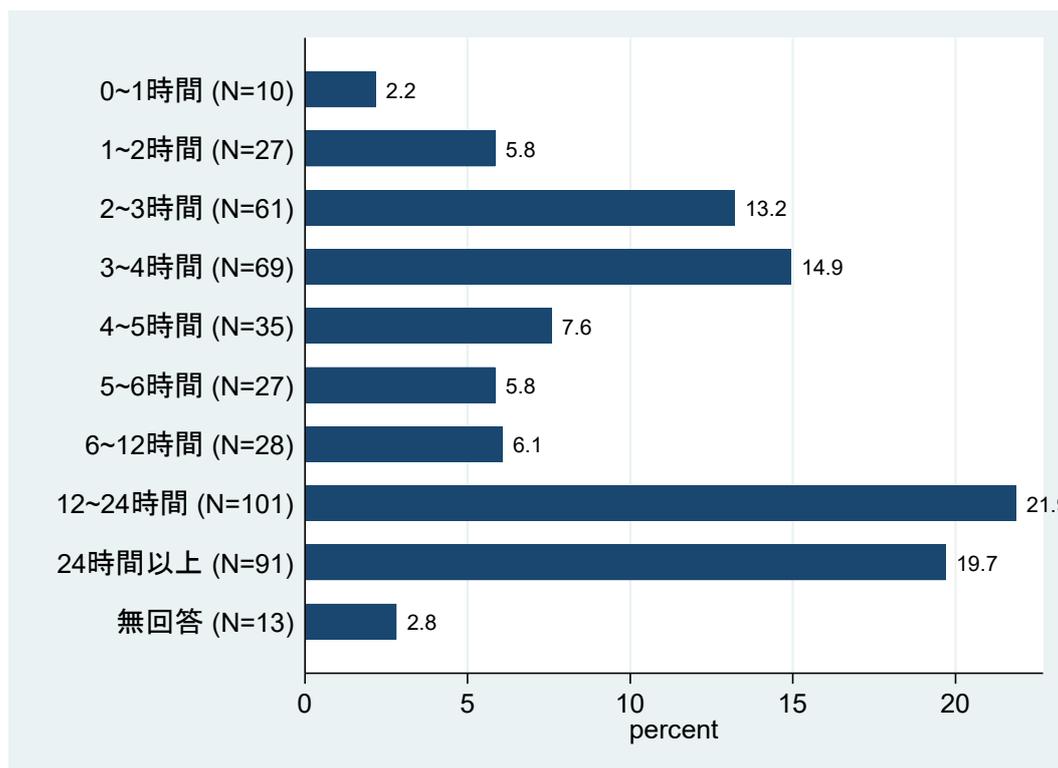
	酒田市内に 宿泊	酒田市を 日帰りで訪問	不明	計
酒田市内のみの旅行	95 (20.6)	60 (13)	13 (2.8)	168 (36.4)
酒田市以外にも旅行	118 (25.5)	149 (32.3)	27 (5.8)	294 (63.6)
計	213 (46.1)	209 (45.2)	40 (8.7)	462 (100)

(注) カッコ内の数値は全体に占める割合である。

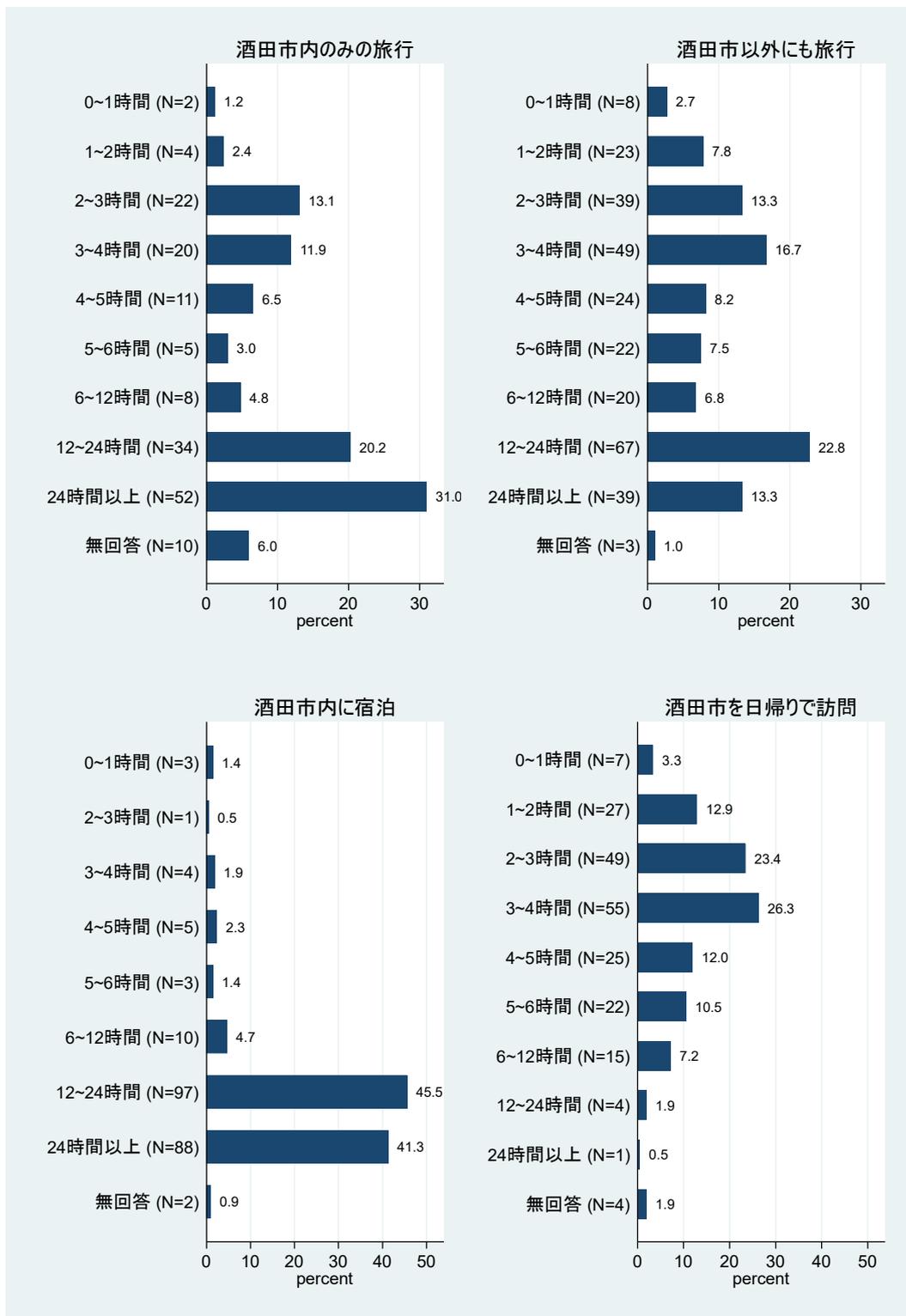
### ■酒田市の滞在時間

図表 3-8 は、酒田市の滞在時間を示している。約 4 割が半日以上滞在している一方で、4 時間以下しか滞在していない人も 4 割弱いる。また、酒田市内のみの旅行であった人ほど長く滞在している傾向があり、市内に宿泊した人は明らかに滞在時間が長い（図表 3-9）。

図表 3-8 酒田市の滞在時間



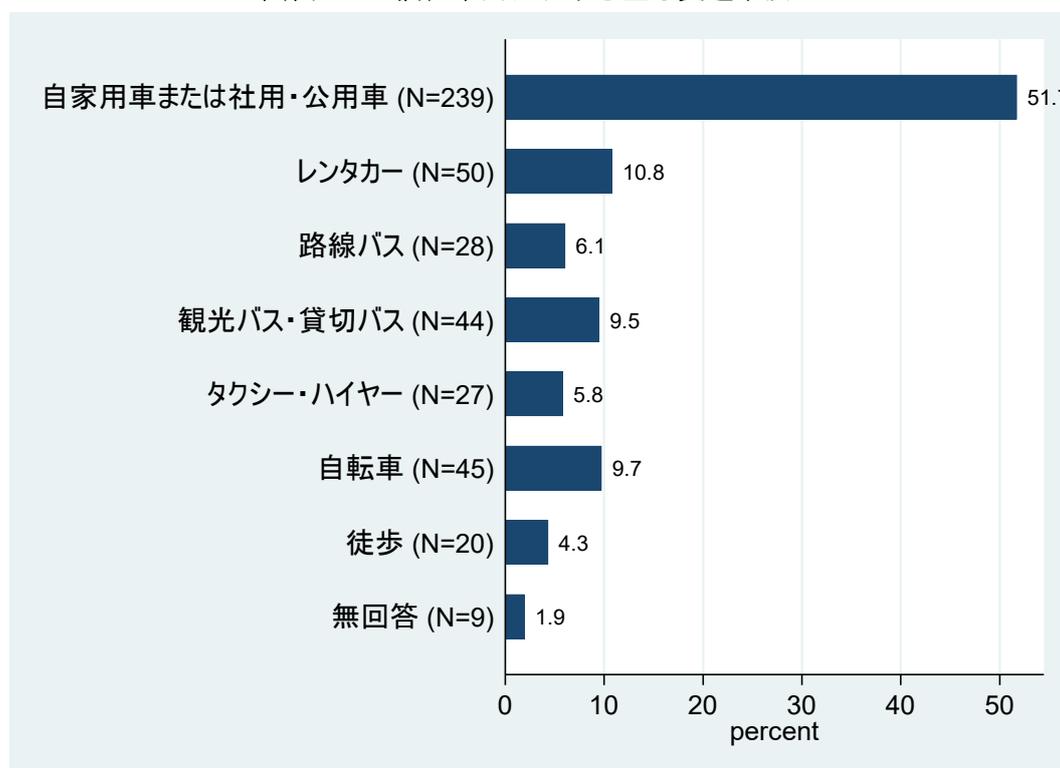
図表 3-9 酒田市の滞在時間（タイプ別）



### ■市内観光における主な交通手段

酒田市内における主な交通手段は、自家用車または社用・公用車が 51.7%と最も多く、次いでレンタカーが 10.8%、観光バス・貸切バスが 9.5%となっている（図表 3-10）。図表 3-11 は、回答者の世帯年収と酒田市内における主な交通手段との関係を示したものである。一部の交通手段においては世帯年収に特有な分布が観察されないが、レンタカーにおいては 500 万円以上の所得層が利用し、路線バスと観光バス・貸切バスにおいては 500 万円未満の所得層が利用する傾向があることが分かった。

図表 3-10 酒田市内における主な交通手段



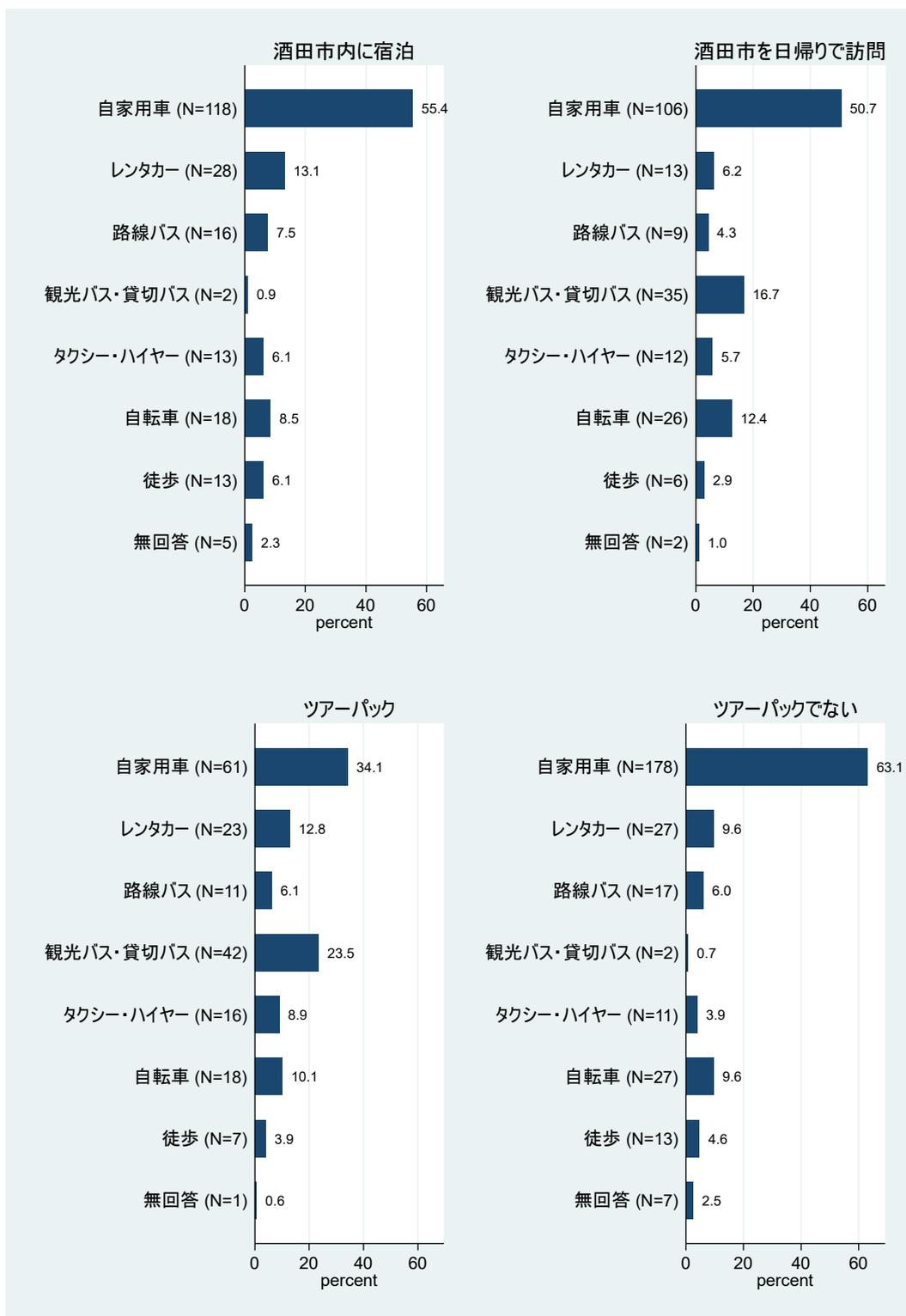
図表 3-11 回答者の世帯年収と酒田市内における主な交通手段のクロス表

	酒田市内における主な交通手段							計
	自家用車 または 社用・公用車	レンタカー	路線バス	観光バス・ 貸切バス	タクシー・ ハイヤー	自転車	徒歩	
なし	7 (41.2)	3 (17.7)	2 (11.8)	1 (5.9)	2 (11.8)	2 (11.8)	0 (0)	17 (100)
1-299万円	52 (59.1)	1 (1.1)	9 (10.2)	14 (15.9)	2 (2.3)	9 (10.2)	1 (1.1)	88 (100)
300万-499万円	75 (57.3)	7 (5.3)	4 (3.1)	15 (11.5)	11 (8.4)	12 (9.2)	7 (5.3)	131 (100)
世帯 500万-699万円	44 (52.4)	9 (10.7)	7 (8.3)	6 (7.1)	5 (6)	8 (9.5)	5 (6)	84 (100)
年 700万-899万円	30 (57.7)	7 (13.5)	2 (3.9)	2 (3.9)	3 (5.8)	7 (13.5)	1 (1.9)	52 (100)
収 900万-1,099万円	8 (30.8)	9 (34.6)	3 (11.5)	2 (7.7)	0 (0)	2 (7.7)	2 (7.7)	26 (100)
1,100万円以上	15 (39.5)	11 (29)	1 (2.6)	1 (2.6)	1 (2.6)	5 (13.2)	4 (10.5)	38 (100)
計	231 (53)	47 (10.8)	28 (6.4)	41 (9.4)	24 (5.5)	45 (10.3)	20 (4.6)	436 (100)

(注)カッコ内の数値は全体に占める割合である。

また、主な交通手段を旅行のタイプ別に見た図表 3-12 によれば、酒田市内に宿泊した人に比べて、日帰りで訪問した人の方が観光バス・貸切バスを用いている。さらに、ツアーパックでの旅行だった人は、ツアーパックでない人に比べて自家用車の利用が少なく、観光バス・貸切バスの利用が多い。

図表 3-12 酒田市内における主な交通手段（タイプ別）



### ■酒田市の情報入手の媒体

図表 3-13 は、今回の旅行において酒田市の情報をどこから入手したかを表しており、複数回答を許容しているため、のべの回答数を示している。インターネットが最も多いが、パンフレットやガイドブックといった紙媒体の情報源、家族・友人の「口コミ」も有用なものとなっている。

図表 3-13 酒田市の情報入手の媒体

	回答数(のべ)
ガイドブック	103
旅行専門雑誌	43
パンフレット	130
新聞・雑誌	22
テレビ・ラジオ	17
家族・友人の話	119
旅行会社	27
観光案内所	63
インターネット(パソコンから)	158
インターネット(スマートフォン・携帯電話から)	156
SNS	27
本人または家族が地元出身	4
以前来訪したときの情報	7
仕事上で	3

### ■GoTo トラベルキャンペーンの利用状況

最後に、今回の旅行で政府の GoTo トラベルキャンペーンを利用したかどうかについては図表 3-14 に示している。調査を行った時期には新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言は発令されておらず、73.6%が利用したと回答している。

図表 3-14 GoTo トラベルキャンペーンの利用

	人数	(%)
利用した	340	73.6
利用しなかった	110	23.8
無回答	12	2.6
計	462	100

### 3. 3 酒田市内における消費単価

酒田市内における消費単価の記述統計は図表 3-15 のとおりである。ツアーパックでない場合、回答者は酒田市内での支出金額を支出項目ごとに回答しているの、その数値を用いる。ツアーパックの場合、回答者はパック代金総額とそれに含まれない酒田市内での支出金額を回答しているが、ここでは後者の数値を用いる。その理由は次の 2 つである。ひとつは、パック代金総額に含まれる内容は回答者によってまちまちであり、支出項目ごとの内訳を適切に推計することは難しいからである。もうひとつは、回答者が酒田市以外の地域にも旅行した場合、パック代金総額のうちどれだけが酒田市内での支出額に相当するかを適切に推計することは難しいからである。ツアーパックの場合とそうでない場合で、支出項目ごとの金額の意味合いがやや異なることに注意が必要である。

宿泊代については、回答された値を同行者数と酒田市の泊数で除して 1 人・1 泊あたりの金額を算出した。それ以外の支出項目については、酒田市の滞在日数（＝泊数＋1）で除して 1 人・1 日あたりの金額を算出した。

図表 3-15 酒田市内における消費単価（記述統計）

(A) ツアーパックの場合		(単位:千円)				
	観測数	平均	標準偏差	最小値	最大値	
宿泊代	95	1.62	3.05	0	16.67	
交通費	95	0.84	1.79	0	10.33	
飲食費（昼）	95	0.73	0.88	0	4	
飲食費（夜）	95	0.82	1.87	0	10	
買物代	95	1.50	2.03	0	10	
入場料・拝観料	95	0.42	0.76	0	4	
その他（体験費用等）	95	0.03	0.20	0	1.67	

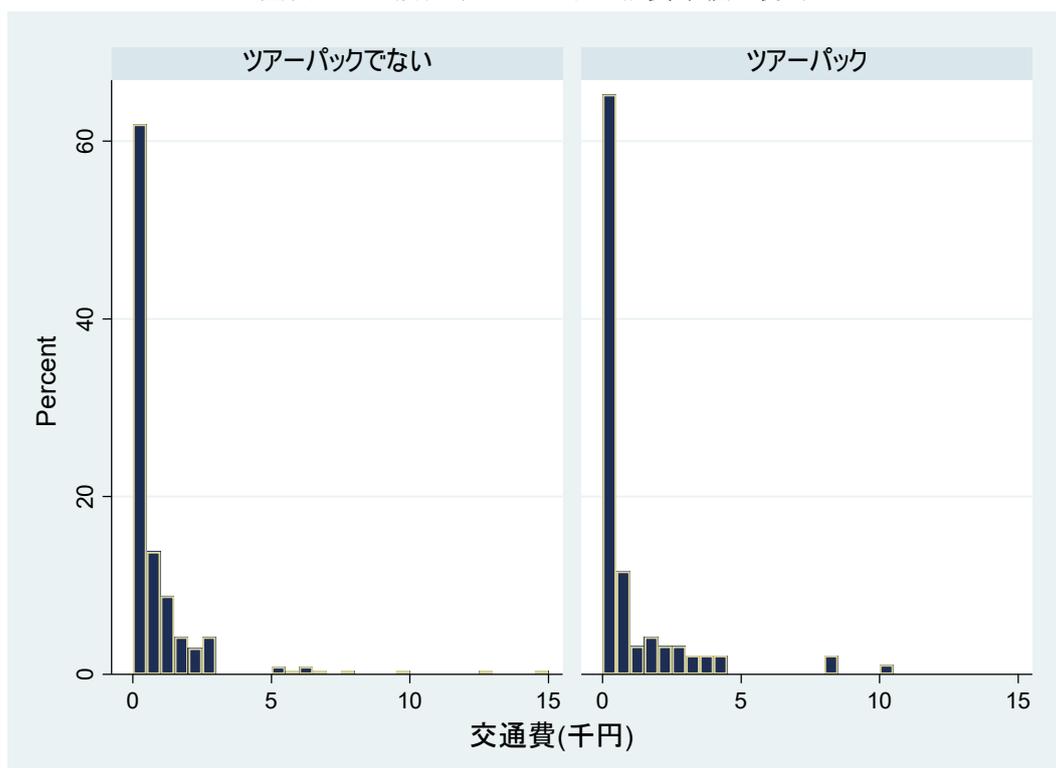
  

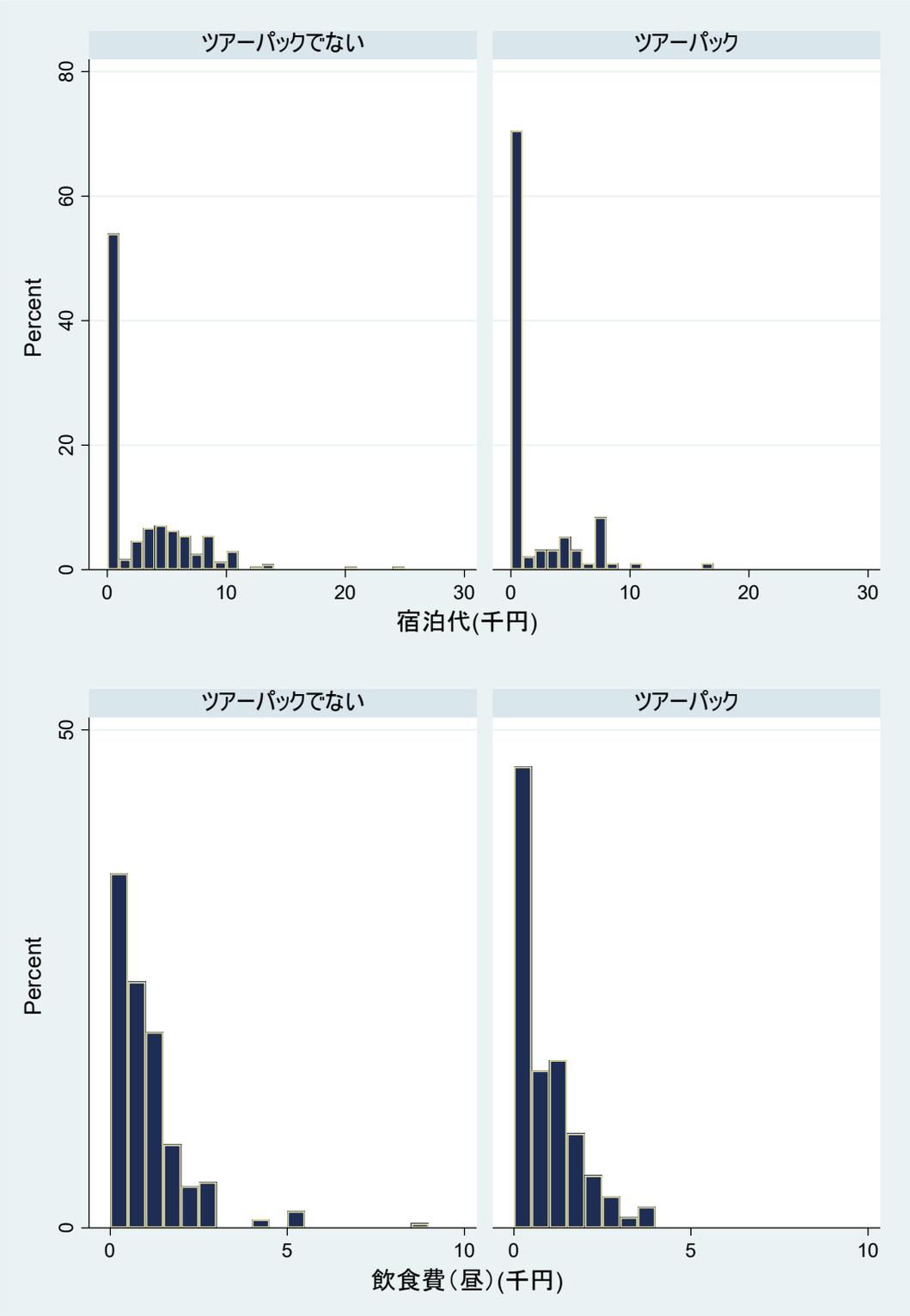
(B) ツアーパックでない場合		(単位:千円)				
	観測数	平均	標準偏差	最小値	最大値	
宿泊代	239	2.68	3.76	0	25	
交通費	239	0.76	1.77	0	15	
飲食費（昼）	239	0.87	1.07	0	9	
飲食費（夜）	239	0.85	1.61	0	13.5	
買物代	239	1.58	2.21	0	20	
入場料・拝観料	239	0.42	0.77	0	8	
その他（体験費用等）	239	0.09	0.70	0	7	

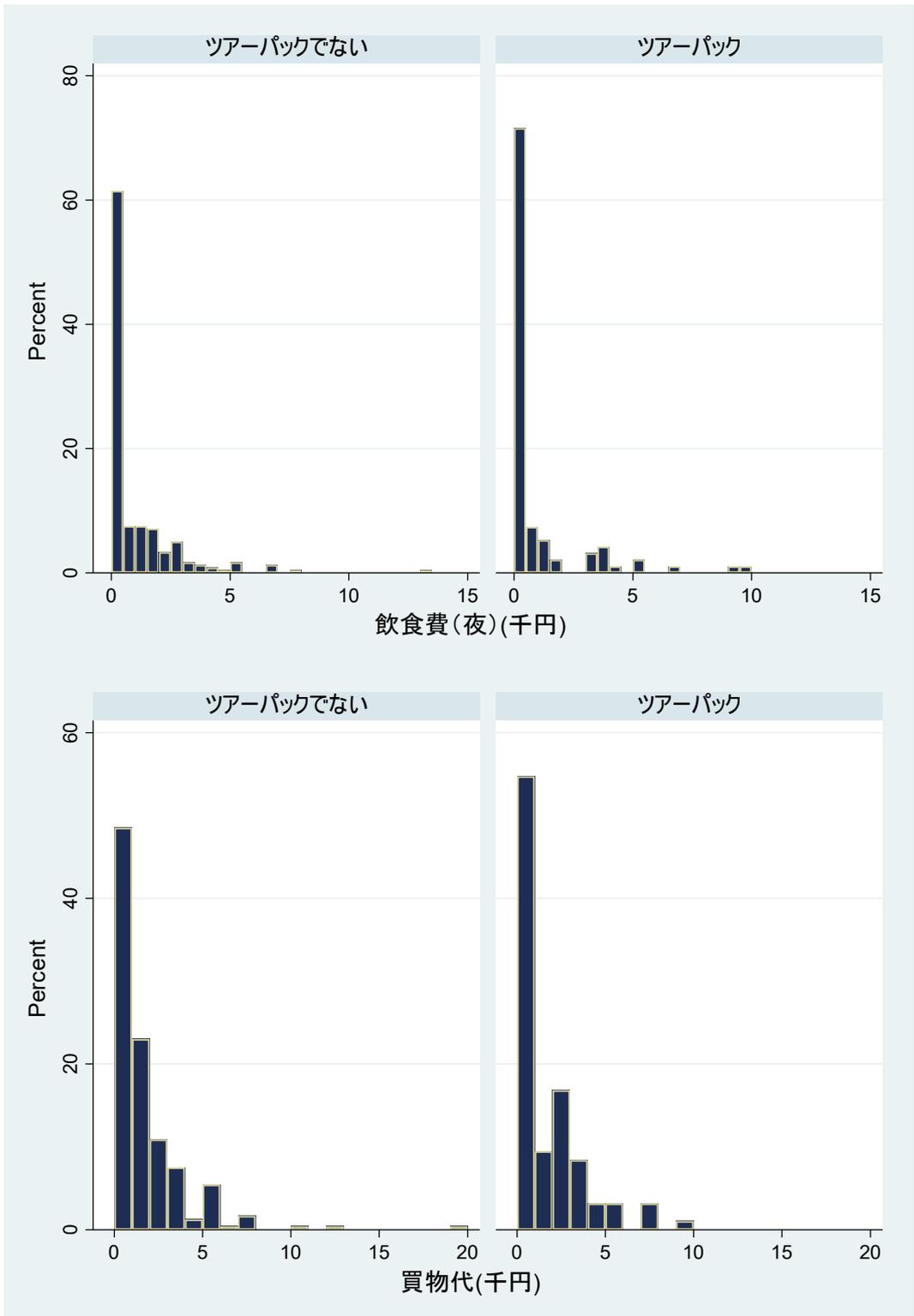
ツアーパックの場合の消費単価は、パック代金に含まれない追加的な支出額を表しているため、ツアーパックでない場合の消費単価に比べて平均的に低くなっている（交通費を除く）。ただ、宿泊代を除いて、平均値にそれほど大きな差はない。

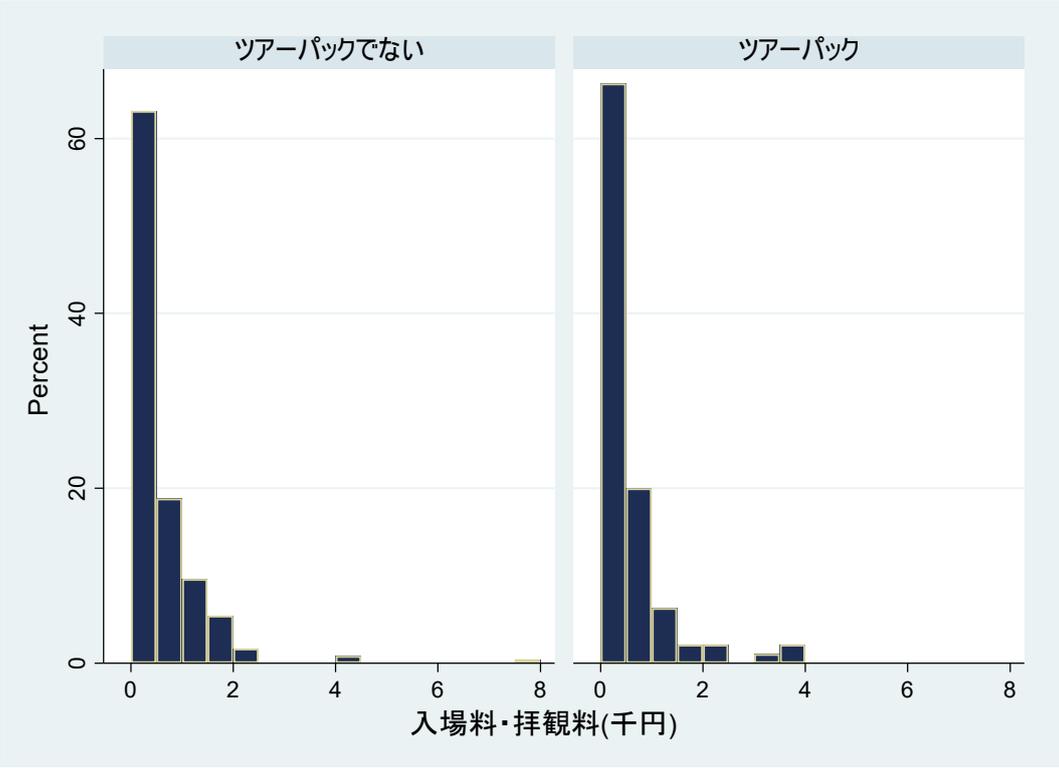
酒田市内における消費単価の分布は、図表 3-16 の通りである。平均値がごく小さい「その他（体験費用等）」は省略した。ツアーパックの場合とそうでない場合を単純に比較することはできないが、両者の分布に顕著な差は観察されない。

図表 3-16 酒田市内における消費単価の分布





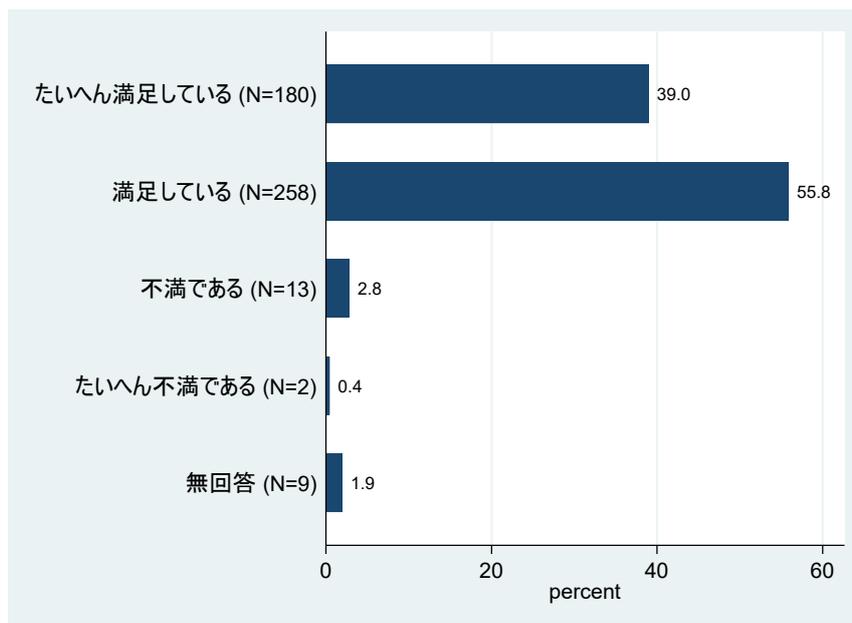




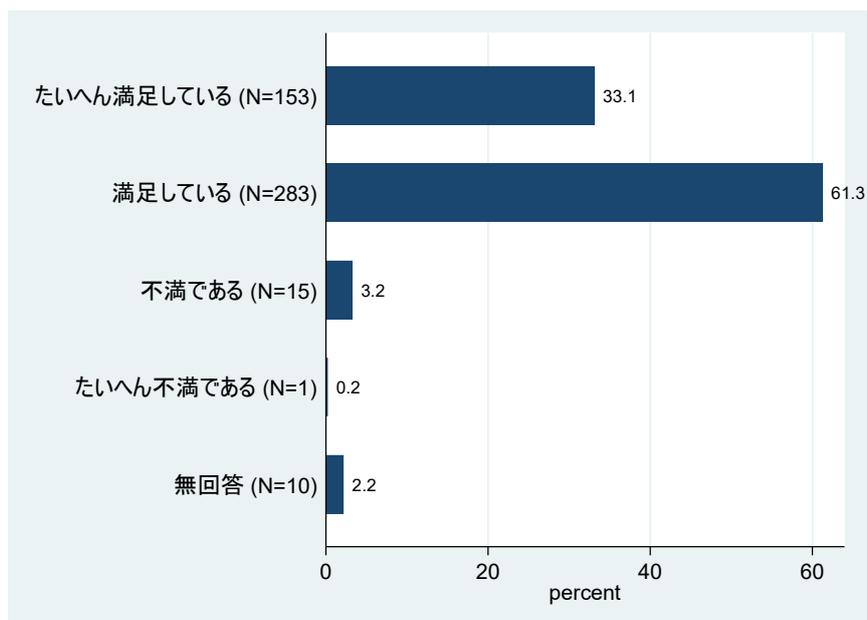
### 3. 4 満足度・再訪意向

旅行全体と酒田市に対する満足度は、それぞれ図表 3-17 と 3-18 の通りである。「たいへん満足している」と「満足している」を合わせれば、旅行全体に対しても、酒田市に対しても、9 割超の人がどちらかという満足していることが分かる。

図表 3-17 旅行全体に対する満足度



図表 3-18 酒田市に対する満足度



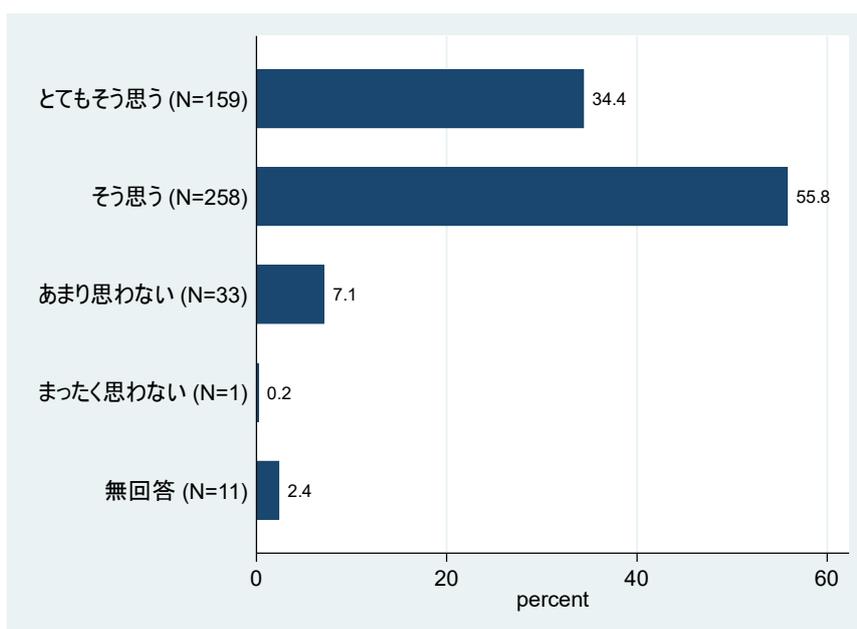
図表 3-19 は、回答者が酒田市のどの点に魅力を感じたかを示している（複数回答）。名所・旧跡、自然・風景、飲食、伝統文化、美術館・博物館に魅力を感じている人が多い。

図表 3-19 酒田市の魅力

	回答数(のべ)
名所・旧跡	239
自然・風景	213
伝統文化	147
美術館・博物館	139
宿泊	65
街並み	110
街の清潔さ	60
飲食	164
買物(お土産・名産品など)	113
観光案内所での情報提供	41
公共交通機関	10
交通状況(道路の渋滞等)	32

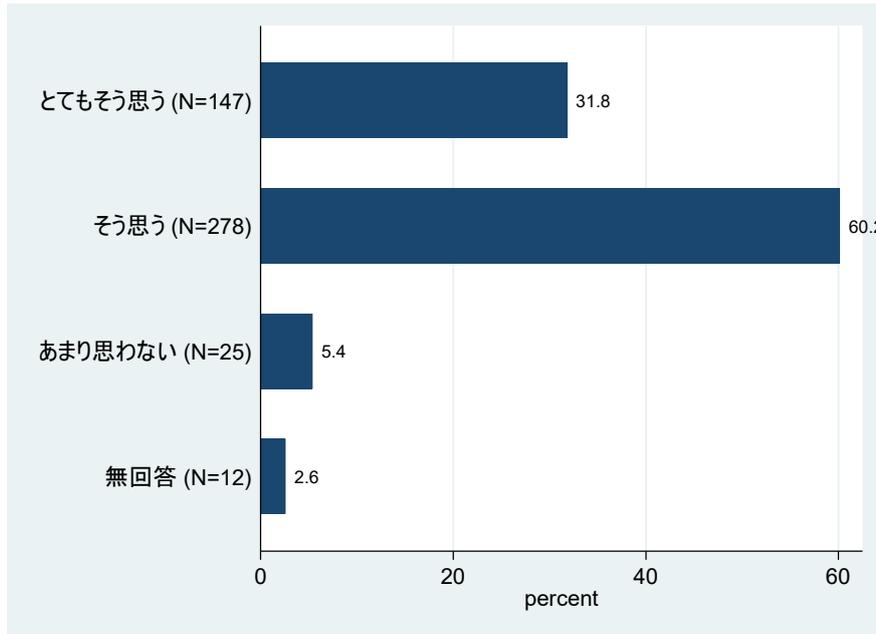
酒田市を再び観光で訪れたいと思うかどうかについては、「とてもそう思う」と「そう思う」を合わせれば、約 9 割の人が再訪の意思があることが分かる（図表 3-20）。

図表 3-20 酒田市への再訪意思



また、酒田市への観光を親しい友人に勧めたいと思うかどうかについて、図表 3-21 に示した。「とてもそう思う」と「そう思う」を合わせれば、約 9 割の人が勧めたいと思っており、酒田市に対する評価は総じて高いといえる。

図表 3-21 酒田市観光の推薦



## 4 観光地間の移動に関する分析

本章では、旅行者がどのような訪問ルートをとって観光地を訪れているか、またさらには旅行者の属性によって訪問ルートを選択に傾向の違いがあるかを見ていく。分析にあたっては、各回答者が訪れた観光地とそれらを訪れた順番のデータを基に訪問ルートを再現し、それを一般にグラフと呼ばれるネットワーク構造の形式で図示することによって、視覚的に傾向をとらえる方法をとる。

### 4. 1 旅行者の訪問傾向・訪問地点の数

はじめに、全回答者が観光地を移動した経路を表したネットワークを図表 4-1 に示す。図表中にある各点は観光地を表しており、エリアごとに地理関係と図表の見やすさを考慮しながら配置してある。さらに、観光地をエリアごとにまとめ、エリア間の移動経路として表したものを図表 4-2 に示す。

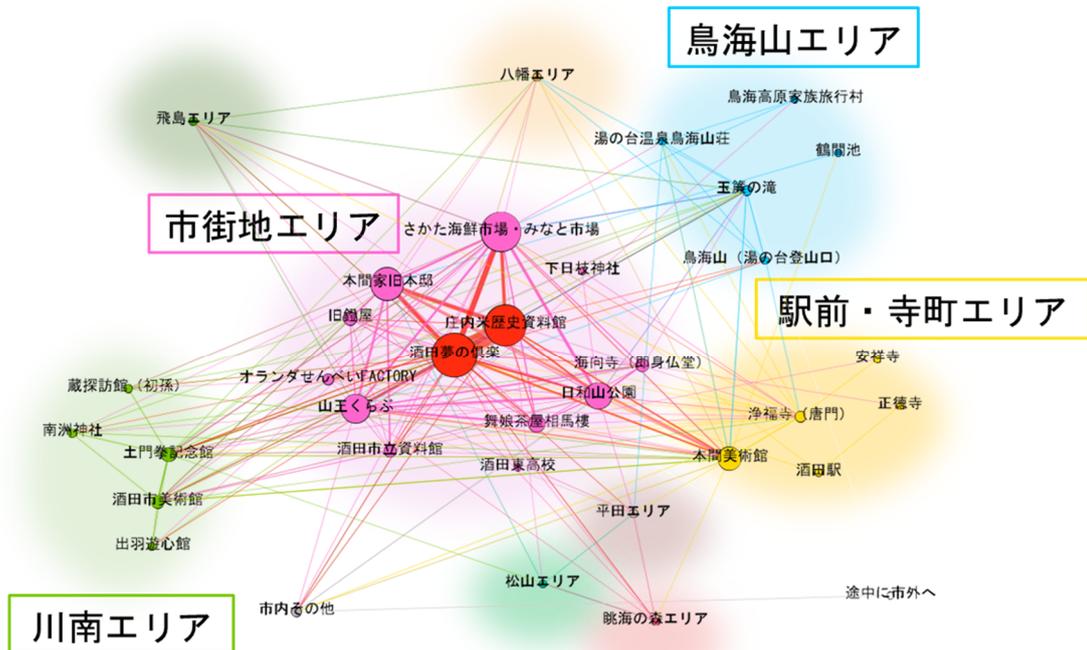
任意の 2 地点の間に引かれる線分（以下、「辺」）はその 2 地点のどちらか一方を始点とし他方を終点とする（ほかの地点を経由しない）移動を表す。つまり、たとえば 1 か所目に A、2 か所目に B、3 か所目に C を訪れる訪問ルートは、グラフ上には A と B を表す 2 点間および B と C を表す 2 点間のみを辺を記すことで表現される。各辺はそこを移動した回答者の数に比例して太く、また各点はその点を終点とした移動の合計に比例して大きく表示してある。平たくいえば、各辺の太さはそこを通った回答者の数、各点の大きさはそこを訪れた回答者の数を反映している。さらに各点の色はエリアごとに統一（山居倉庫に位置する酒田夢の倶楽、庄内米歴史資料館を表す 2 点のみ同じ市街地エリアの点とは異なる色を使用）し、各辺の色は始点と同じ色とした<sup>1</sup>。

図表 4-1 からはまず、訪問数の多い観光地が市街地に集中していることが見てとれる。中でも山居倉庫（酒田夢の倶楽、庄内米歴史資料館）へ訪問する回答者の割合（以下、訪問割合）が最も高く、また山居倉庫とさかた海鮮市場・みなと市場、本間家旧本邸、山王くらぶ、日和山公園の間の移動が特に多い。昨年度の調査結果と比較すると、全体的には大きな変化こそないものの、日和山公園への訪問割合は大きく増加した。また、これらの代表的な観光地のうち、さかた海鮮市場・みなと市場、本間家旧本邸、山王くらぶのそれぞれと酒田夢の倶楽の間の移動が特に多いことから、これまでの調査結果と同様、山居倉庫が酒田市内の旅行においてハブとしての役割を担っていることが考えられる。市街地エリア以外にも目を向けると、川南エリアでは土門拳記念館と酒田市美術館、駅前・寺町エリアでは本間美術館、鳥海山エリアでは玉簾の滝に他エリアからの移動経路が集中しており、これらが各エリア

---

<sup>1</sup> 2 点の間にはどちらを始点とするかで区別された（場合によって色も異なる）2 本の辺が存在しうるが、それらを分けて描き表すことによって表示が煩雑となるため、2 点を通る直線上に両者を重ねて表示することとした。しかし、通った回答者の数によって辺の太さに差を設けてあるため、数が大きい辺の方が強調されていることに変わりはない。

図表 4-1 全回答者の移動経路ネットワーク（地点間）



の玄関口となっていることが分かる。エリア単位での移動を示す図表 4-2 を見ても、市街地エリアー駅前・寺町エリア間、そして市街地エリアー川南エリア間の移動が特に多く、それらに次いで鳥海山エリアの訪問割合も高いことが分かる。

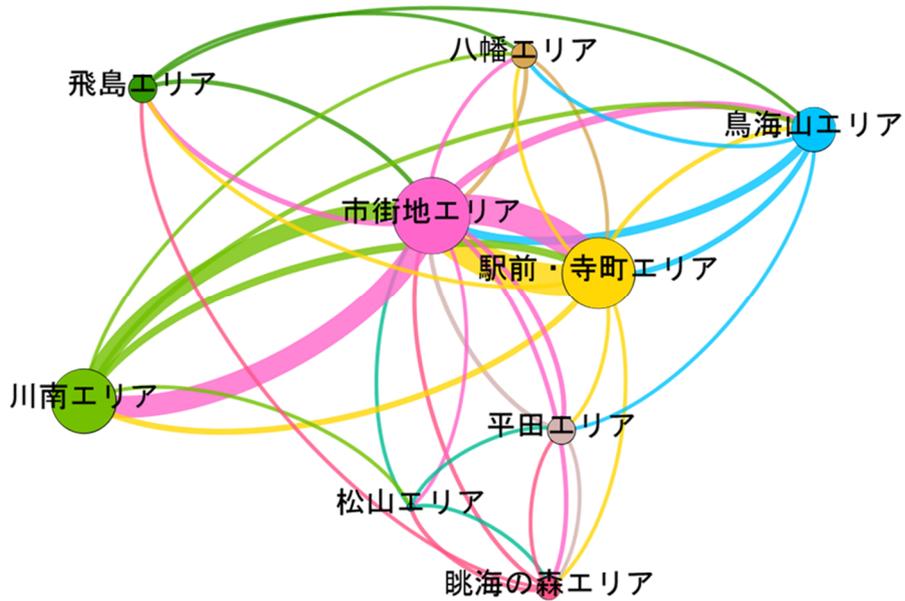
図表 4-3 は、回答者が酒田市内で訪問した地点数の分布を表すヒストグラムである。分布は「3 か所」を最頻値とした単峰型の形状であり、2～4 箇所を訪問した訪問者が全体の半数以上を占めているが、その一方で 7 か所以上の地点を訪れている割合が 1 割を超えている。その結果として、平均値は 3.80 と最頻値よりやや大きい数値となった。昨年度の調査では訪問地点数平均が 3.85 という結果（有効回答者 347 名）であり、Welch の t 検定<sup>2</sup>を実施したところ今年度と昨年度の訪問地点数の平均の間には有意な差が見られなかった。加えて、移動経路ネットワークの傾向を比較しても、全体における訪問傾向に関しては今年度と昨年度との間に特に大きな変化は見られなかった。

#### 4. 2 年齢別の訪問傾向・訪問地点の数

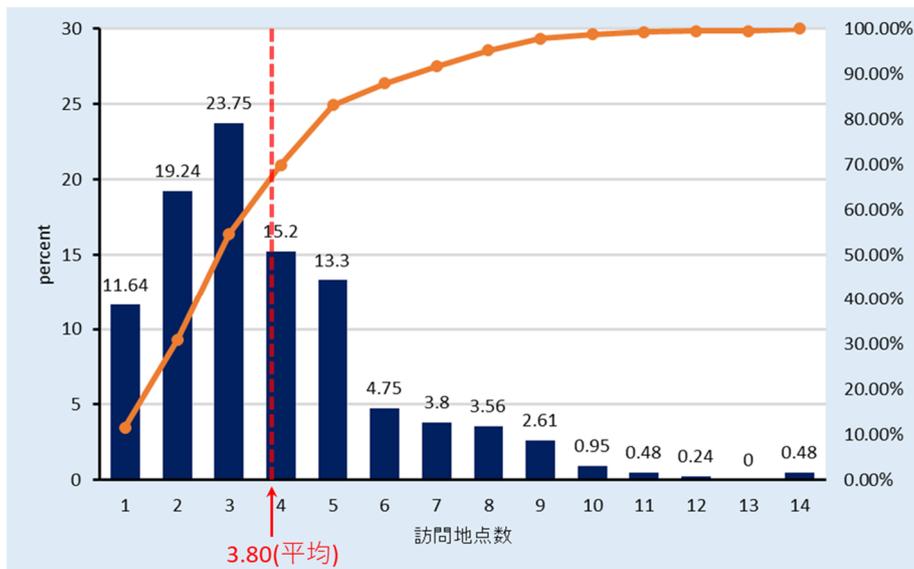
図表 4-4 では回答者の年齢別の訪問地点数の平均値を示す。10 歳ごとの区分ではサンプル数が小さいものもあるため、基本的には 20 歳ごとの区分を採用したが、アンケートにおいて「10 歳未満」は該当者が 1 名、「10 歳代」は該当者が 2 名であったことから、それらは「20 歳代」の該当者とまとめて「0～29 歳」のグループとした。結果によると、訪問地

<sup>2</sup> Welch (1947)を参照。検定に際しては、有意水準を 5%とした両側での検定を行った。

図表 4-2 全回答者の移動経路ネットワーク（エリア間）



図表 4-3 訪問地点数の分布



点数は 30～49 歳が最も大きく、また一方で 0～29 歳が最も小さい。Welch の t 検定によって平均の差の検定を行うと、0～29 歳代と他のすべての年齢区分の間において訪問地点数の平均に有意な差があることが分かり、0～29 歳の訪問地点数の平均は他のすべての世代よりも有意に低いことがいえる。この結果から、各年齢区分によって世帯年収の偏りが存在しないと仮定すれば、酒田市内には若年層の興味を引くような観光要素が不足している可能性が考えられる。

年齢別の移動経路ネットワークを図表 4-5 に示す。図表 4-1 や図表 4-2 と同じく、各グ

図表 4-4 年齢別の訪問地点数<sup>3</sup>

年齢	該当者数	訪問地点数平均
0～29歳	29	2.90
30歳～49歳	102	3.97
50歳～69歳	210	3.70
70歳以上	72	3.87
不明	8	5.50

グラフにおける辺の太さはそこを移動する回答者の数を表すが、区分によってサンプルサイズの差がある点に配慮し、各区分の総移動数が 100 になるように基準化して辺の太さを調整した<sup>4</sup>。そのため、サンプル数が少ない区分においては辺の太さの対比がより極端に表れる傾向にある点を注意されたい。各点の大きさについては、まず訪問割合が最も高い地点を示す点の大きさを区分間で統一し、そこを基準として区分ごとに訪問割合に応じて各点の大きさを調整した。

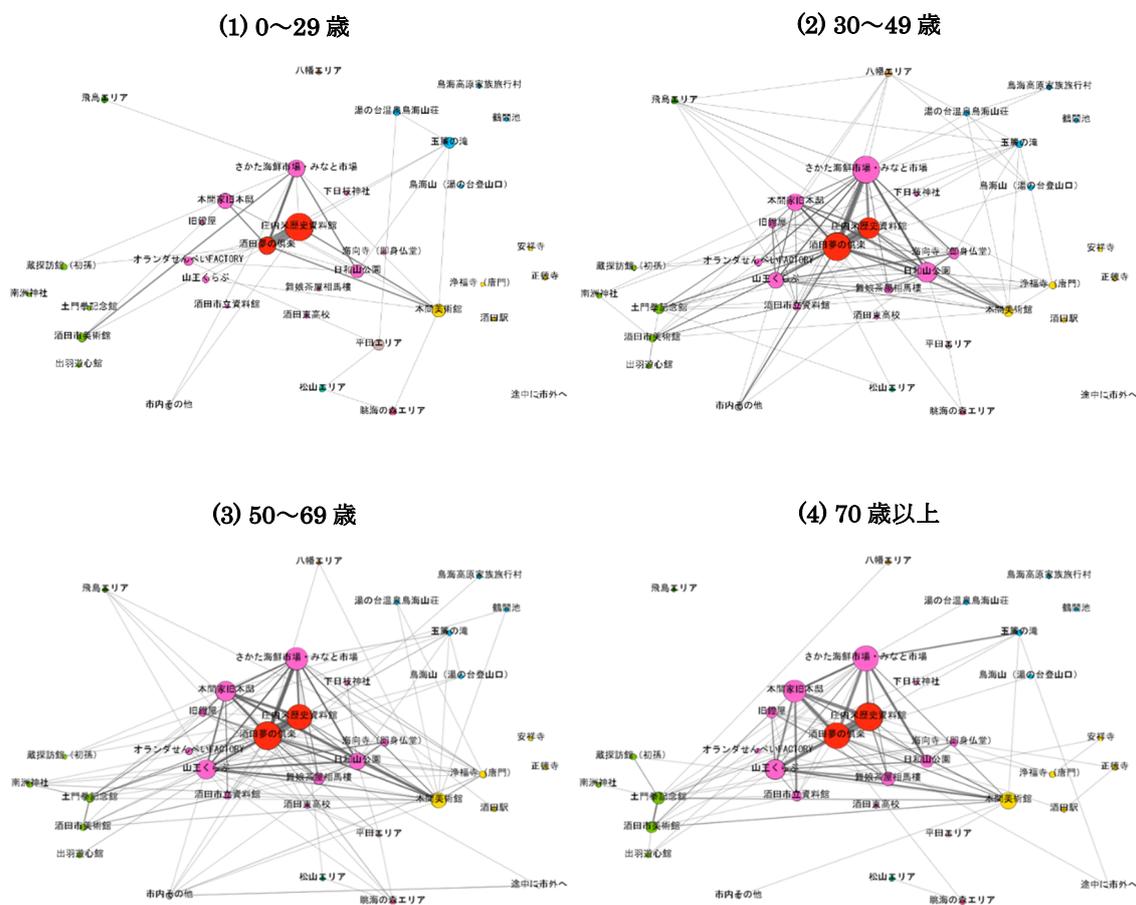
0～29 歳から 50～69 歳にかけて、高い年齢区分になるほど移動のパターンが多様になっていくように見えるが、これは 0～29 歳のサンプル数が少なく 50～69 歳のサンプル数が多い（サンプル数が多いほど多様になりがちである）ことが一つの原因として考えられるため、年齢との関連があるものと断定するのは難しい。同様に、0～29 歳から 50～69 歳まで年齢区分が上がるごとに辺が細くなっているような場合についても、サンプル数が多くなるほど多様になり各辺が細く均質化していくことが原因である可能性があり、年齢との関連があることを前提に議論を進めることはできない。以下では、上記の点に留意しながら各グラフの特徴をとらえていく。

0～29 歳においては、山居倉庫に加えさかた海鮮市場・みなと市場を拠点とした移動の傾向が見受けられる。酒田夢の倶楽には太い（移動割合が高い）辺が比較的集中しているにも関わらず、点が小さく（訪問割合が低い）表示されている。これは、移動経路ネットワークの作成に際して市内の別地点からの訪問を集計しているために、各回答者が初めの（市外からの）訪問はグラフに反映されないことが原因であると考えられる。つまり、0～29 歳は他の年齢区分と比べて酒田夢の倶楽を最初の訪問地点としている傾向が強い可能性がある。また、土門拳記念館、山王くらぶへの訪問が少ない一方、庄内米歴史資料館に訪問が集中している点も特徴的である。30～49 歳においては、さかた海鮮市場・みなと市場、日和山公園への訪問割合が他のどの年齢区分よりも多い。50～69 歳においては、主要でない地点への訪問も多いと見られるが、年齢区分の特徴によるものか先述したサンプル数の違いによるものかの判別は難しい。70 歳以上については、サンプル数が少ないことが原因とも考え

<sup>3</sup> 図表 4-4 に記された「該当者数」は、アンケートにおいて酒田市内の移動経路を問う質問に対し有効回答を行った回答者のみを区分ごとに数えたものであり、3 章で示された集計結果とは必ずしも一致しない。また、これ以降の同様の図表における該当者数についても同様である。

<sup>4</sup> 厳密には、観光地  $i$  を始点、観光地  $j$  を終点とする辺  $ij$  の移動を行った回答者の数を  $n_{ij}$  としたとき、各辺  $ij$  について  $n_{ij}/(\sum_{k,l,k \neq l} n_{kl})$  で表される割合の大きさに応じて辺の太さを調整した。

図表 4-5 年齢別の移動経路ネットワーク



られるが、飛島エリアへの訪問割合がゼロとなっていることが一つの特徴といえる。

全体的に見てみると、まず最も顕著であるのは年齢が上がるにつれて山王くらぶの訪問割合が高くなることを見て取れ、わずかではあるが本間家旧本邸にも同様の傾向がうかがえる。また、30~49 歳と 50~69 歳は鳥海山エリアおよび飛島エリアへ訪問する割合が高い。

本節で行った年齢での分類は、あくまで回答者の年齢のみによって分類したものであり、各回答者における同行者の有無や同行者の年齢構成については考慮外としている。そこで次節においては、同行者との間柄と年齢構成によってタイプを絞り、それぞれの訪問傾向について比較していくことにする。

#### 4. 3 「家族」グループにおける世代構成別の訪問傾向・訪問地点の数

ここでは、「家族」と同行した旅行者に焦点を当て、世代構成別での訪問傾向・訪問地点の数を見ていく。細かな特徴によって分類されることから、各区分に属する回答者の均質性が期待される一方、各区分の該当者数（サンプルサイズ）が小さくなってしまったため、得ら

れる結果に対する信憑性が比較的乏しくなる点には注意が必要である。

「家族」グループにおける世代構成別の訪問地点数の平均値を図表 4-6 に示す。「子ども」を含む区分は 0～19 歳、「成年」を含む区分は 20～59 歳、「老年」を含む区分は 60 歳以上の同行者（回答者自身を含む）がいる場合を指す。子ども+老年、子どものみの 2 区分については、該当者数が 0 であったために図表では割愛した。訪問地点数の平均が最大となるのは老年のみの区分であり、最小となるのは子ども+成年+老年の区分であった。この結果に対して 4. 2 節と同様に平均の差の検定を行ったところ、子ども+成年+老年の区分と他の（該当者数が 1 以上である）すべての区分の間、そして成年のみの区分と老年のみの区分の間に有意な差があることが分かった。これを踏まえると、老年と子どものいずれか一方のみを含む場合では訪問地点数の減少は見られないが、両者をともに含むことによって訪問地点数が減少するという事実が示唆される。

「家族」グループにおける世代構成別の移動経路ネットワークを図表 4-7 に示す。各辺の太さおよび各点の大きさは、図表 4-5 と同様の調整を施した。子ども+成年+老年の区分はサンプル数が非常に少なく、酒田夢の倶楽ーさかた海鮮市場・みなと市場間の移動しか見られなかった。子ども+成年の区分も十分なサンプル数とはいえないが、山居倉庫、海鮮市場に加えて本間美術館、酒田市美術館、山王くらぶへの訪問が確認された。成年+老年、成年のみ、そして老年のみの 3 区分については、いずれも市街地を中心とした移動傾向は変わらないものの、成年+老年の区分では山王くらぶや本間家旧本邸への訪問割合が高いこと、成年のみの区分では駅前・寺町エリア内の移動が少ない代わりに鳥海山エリア内での移動が比較的多いこと、老年のみの区分では本間美術館、酒田市美術館、土門拳記念館を連続で訪問する傾向があることなどそれぞれ特徴が見られた。

#### 4. 4 「友人・知人」グループにおける世代構成別の訪問傾向・訪問地点の数

ここでは、「友人・知人」と同行した旅行者に焦点を当て、世代構成別での訪問傾向・訪問地点の数を見ていく。「友人・知人」グループにおける世代構成別の訪問地点数の平均値を図表 4-8 に示す。「子ども」、「成年」、「老年」の表記の意味は前節と同様である。「子ども」を含むすべての区分（子ども+成年+老年、子ども+成年、子ども+老年、子どものみの 4 区分）の該当者数は 0 であったため、図表では割愛した。訪問地点数の平均が最大となるのは成年+老年の区分であり、最小となるのは成年のみの区分であった。成年のみで構成された友人・知人グループよりも老年のみで構成された友人・知人グループの方が訪問地点数が多いという結果となったが、4. 2 節と同様に平均の差の検定を行ったところ、該当者の存在した 3 つの区分のうち、どの 2 つの区分の間にも有意な差は確認されなかった。

「友人・知人」グループにおける世代構成別の移動経路ネットワークを図表 4-9 に示す。各辺の太さおよび各点の大きさは、図表 4-5 と同様の調整を施した。成年+老年の区分はサンプル数が少ないものの、酒田夢の倶楽の 2 地点やさかた海鮮市場・みなと市場だけでな

図表 4-6 「家族」グループ世代構成別の訪問地点数

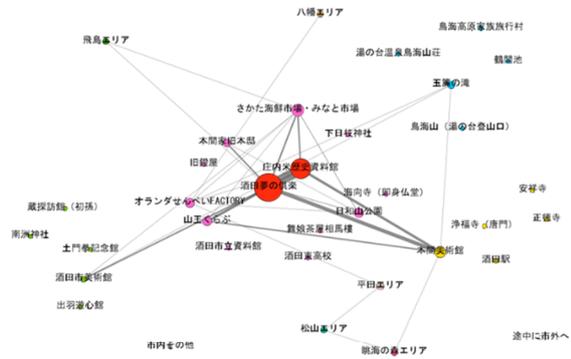
「家族」年齢構成	該当者数	訪問地点数平均
子ども+成年+老年	5	2.40
子ども+成年	21	3.62
成年+老年	44	3.93
成年のみ	59	3.29
老年のみ	81	4.20
不明	3	6.33

図表 4-7 「家族」グループ世代構成別の移動経路ネットワーク

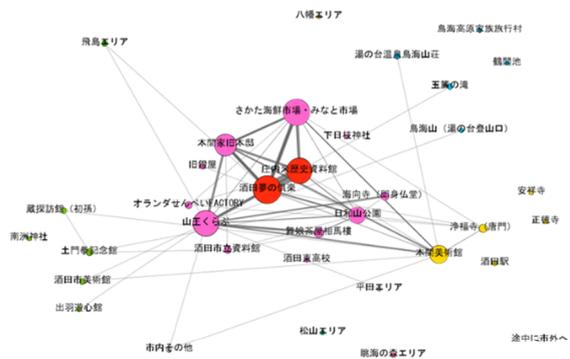
(1) 子ども+成年+老年



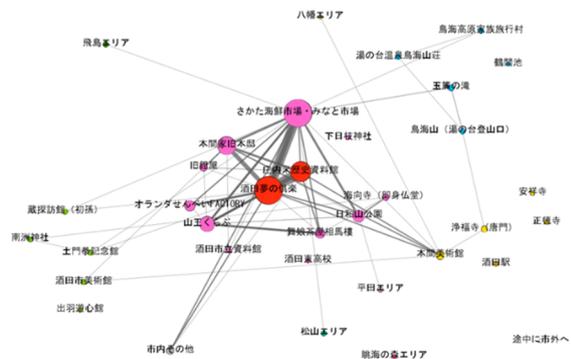
(2) 子ども+成年



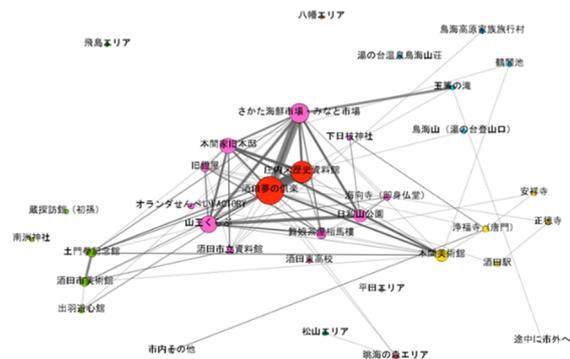
(3) 成年+老年



(4) 成年のみ



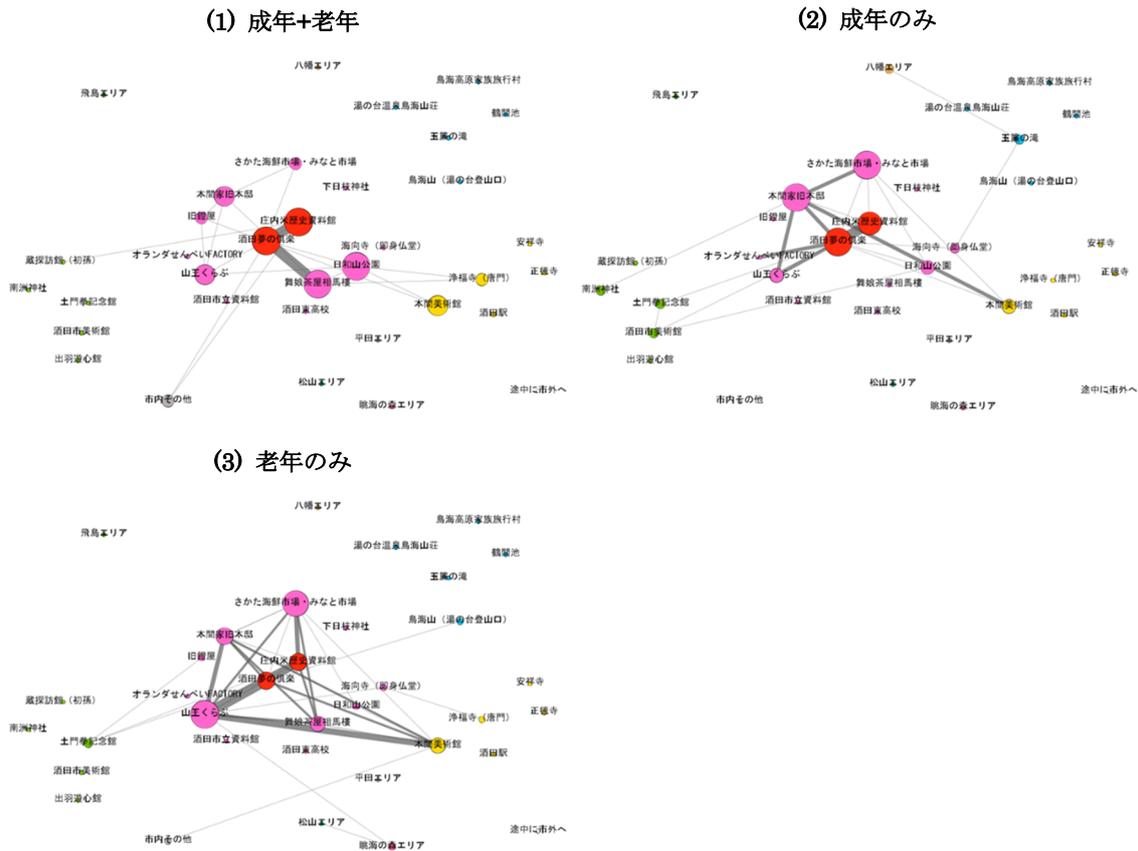
(5) 老年のみ



図表 4-8 「友人・知人」グループ世代構成別の訪問地点数

「友人・知人」年齢構成	該当者数	訪問地点数平均
成年+老年	8	3.75
成年のみ	16	2.94
老年のみ	26	3.27
不明	1	8.00

図表 4-9 「友人・知人」グループ世代構成別の移動経路ネットワーク



く、舞娘茶屋相馬楼、日和山公園への訪問が見られた。成年のみの区分は本間家旧本邸への訪問が多い一方、老年のみの区分は酒田夢の倶楽部を超える割合で山王くらぶや海鮮市場に訪れている点がそれぞれ特徴的である。

#### 4. 5 世帯年収別の訪問傾向・訪問地点の数

世帯年収別の訪問地点数の平均値を図表 4-10 に示す。基本的には 200 万ごとの区分を採用したが、区分ごとサンプル数の大きさにばらつきがあったため、「なし」（無収入）と「1～299 万円」をまとめて「0～299 万円」とし、「700 万～899 万円」、「900 万～1,099 万円」そして「1,100 万円～」をまとめて「700 万円以上」とした。

図表 4-10 世帯年収別の訪問地点数

世帯年収	該当者数	訪問地点数平均
0～299万円	98	3.65
300万～499万円	122	3.66
500万～699万円	80	4.10
700万円以上	110	3.87
不明	11	3.82

訪問地点数の平均値が最大となるのは500～699万円の区分、最小となるのは0～299万円の区分であった。平均の訪問地点数は、0～299万円の区分から500～699万円の区分の間で収入の階級が上がるにつれて増加していき、700万円以上の区分になると減少に転ずる形となった。昨年度の調査においても600～799万円の区分をピークとした山型の推移が見られたことから、区分の仕方は異なるが概ね同様の結果が得られたといえる。この結果を踏まえると、700万円未満までは所得の増加にあわせて酒田市内の観光を充実させようとするが、700万円以上となると酒田市外への観光需要が増し酒田市内への観光は主要地のみにとどめてしまう傾向があるという仮説が立てられる。しかしながら、Welchのt検定においてはどの2つの区分間にも平均値に有意な差はなく、仮説を裏付けるには至らなかった。

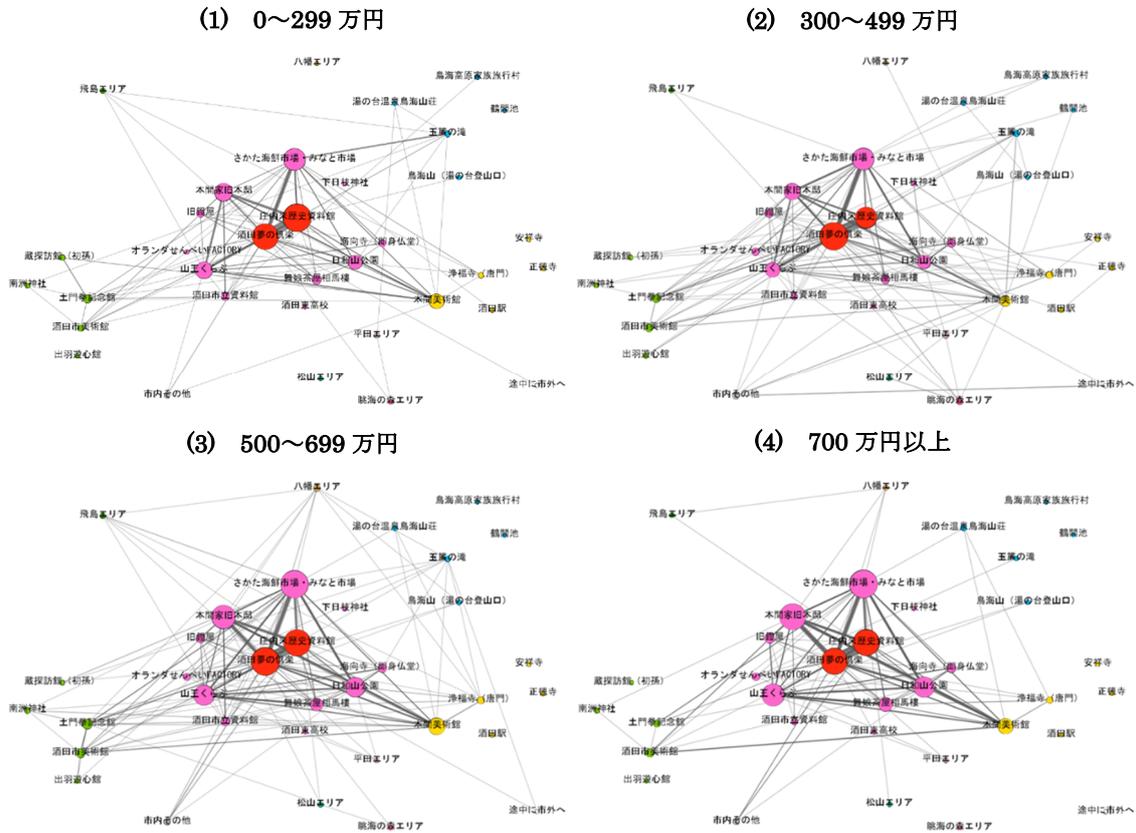
世帯年収別の移動経路ネットワークを図表4-11に示す。各辺の太さおよび各点の大きさは、図表4-5と同様の調整を施した。0～299万円と300万～499万円の区分においては、庄内米歴史資料館と本間美術館を除いて各地点への訪問割合が類似しているように見受けられる。しかし、移動経路を見ると、0～299万円の区分においては飛島エリアへの訪問、また300万～499万円の区分においては鳥海山エリア、駅前・寺町エリア、眺海の森エリアへの訪問が高い。500万～699万円の区分にあたる旅行者は多様な移動が見受けられ、サンプル数の最も多い300～499万円の区分のものとは比べても移動パターンの多様性が確認できる。700万円以上の区分では、直前の区分から打って変わって市街地エリア、駅前・寺町エリア、川南エリア内の地点にほぼ集中している。本間家旧本邸の訪問割合はこの区分が最も高い。

#### 4. 6 同行グループ構成別の訪問傾向・訪問地点の数

ここでは、同行者の有無や同行したグループの人数、性別構成、年齢、間柄などによってタイプに分け、それぞれの訪問地点の数および訪問ルートの特徴について見ていく。

まず、各タイプの訪問地点数の平均を図表4-12に示す。表中にある「子連れ家族」は19歳以下の男性または女性と20歳以上の男性または女性を含む家族のみで構成されたグループを意味する。1人（同行者なし）での旅行においては、成人女性の場合と成人男性の場合の間にはわずかな差しか見られず、Welchのt検定においても有意性は確認されなかった。2人以上のグループ（同行者あり）の旅行においては、成人男性のみで構成された場合と成

図表 4-11 世帯年収別の移動経路ネットワーク



図表 4-12 同行グループ構成別の訪問地点数

同行グループ構成	該当者数	訪問地点数平均
1人:成人男性	55	4.27
1人:成人女性	29	4.34
2人以上:成人男性のみ	28	4.64
2人以上:成人女性のみ	42	3.98
2人以上:成人男女混合	186	3.44
子ども連れ家族	26	3.38
不明	55	3.89

人女性のみで構成された場合とで平均値にある程度の差が見られたものの、1人での旅行と同様、検定によって有意性を確認することはできなかった。ちなみに、昨年度の調査においては1人の場合（成人男性と成人女性）も2人以上の場合（成人男性のみと成人女性のみ）も訪問する地点の数は成人女性の方が有意に多いという結果が出ており、2人以上の場合においては一見すると今年度と昨年度とで結果が整合的でないように見える。しかし、先述したように今年度においては男女間に有意な差が確認されなかったことを踏まえると、偶然に成人男性のみのグループにおいて（母平均と比べて）訪問地点数の多いサンプルを採取したために成人女性のみよりも訪問地点数の平均値が大きくなってしまったという可能性は

否定できないままである。そのため、今年度と昨年度での結果が互いに逆の事実を示しているとはいえない。このようなサンプルに偶然的な偏りが生じるケースは、今回のようにサンプル数が少ない場合に起こりやすい。

その他にも、2人以上の成人男性のみからなるグループは成人男女混合のグループおよび子ども連れ家族よりも訪問地点数の平均が有意に高く、また成人男女混合グループの訪問地点数の平均は成人男性のみのグループだけでなく成人男性の1人での旅行よりも有意に低いことが分かった。このことから、成人男性のみは成人女性とともに酒田市内を旅行する際に訪問地点を絞る傾向が示唆される。

図表 4-13 では、同行グループ構成別の移動経路ネットワークを示す。各辺の太さおよび各点の大きさに対しては図表 4-5 と同様の調整をしてある。

まず、1人で訪問した成人男性と成人女性の特徴については以下の通りである。1人で訪問した成人男性は、日和山公園、飛島エリア、八幡エリアへの訪問割合の多さがやや目立つものの、図表 4-1 の回答者全体の移動経路ネットワークと概ね類似した結果となった。一方、1人で訪問した成人女性は（サンプル数が少ないことも影響している可能性があるが）太い辺が多く、移動パターンが比較的限られていることが見て取れ、1人で訪問した成人男性と比べて酒田市美術館や酒田市立資料館への訪問が少ない。

2人以上のグループでの旅行については、成人男性のみの場合は1人旅の成人男性よりも行動範囲が狭まり、市街地エリア以外のエリアへの移動が減少していることが見て取れる。逆に、成人女性のみで構成されるグループは1人旅での成人女性よりも移動範囲が広くなり、川南エリアや駅前・寺町エリアへの訪問傾向が見られる。成人男女混合のグループは、行動範囲も広く移動パターンも多様である印象を受けるが、このタイプに該当するサンプルの数は男性のみ、または女性のみタイプと比べて極端に多く、特徴に依存した傾向として断言することはできない。

子ども連れ家族のタイプでは、山居倉庫と本間美術館、海鮮市場、酒田美術館、山王くらぶ、本間家旧本邸の間などが比較的太い辺で示されるのみとなり、移動経路がかなり限られていることが見て取れる。他にも、駅前・寺町エリアや川南エリアへは訪問割合が小さい一方で、飛島エリア、八幡エリアなどの遠方のエリアへ訪問する傾向が見られる点もこの区分の特徴であるといえる。

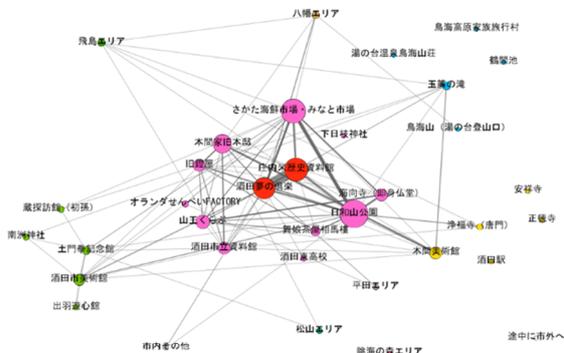
#### 4. 7 主な交通手段別の訪問傾向・訪問地点の数

主な交通手段別の訪問地点数の平均値を図表 4-14 に示す。各区分の分類は3章で用いた基準に従った。

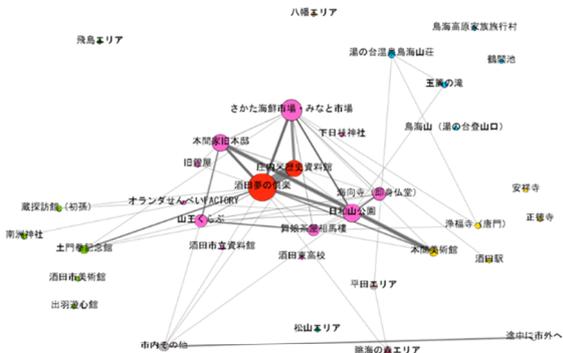
平均での訪問地点数が最も多いのは、路線バスという結果となった。路線バスは、移動距離に比して金銭的費用が低く、体力的な負担も小さい。この特徴から、訪問地点を追加する際に生じる費用（限界費用）が比較的安く、訪問地点が多くなると考えられる。次点となっ

図表 4-13 同行グループ構成別の訪問ルート

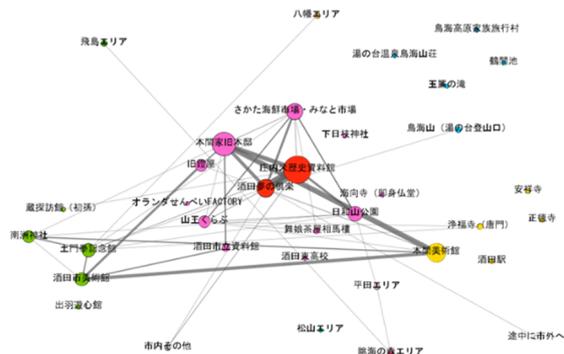
(1) 1人：成人男性のみ



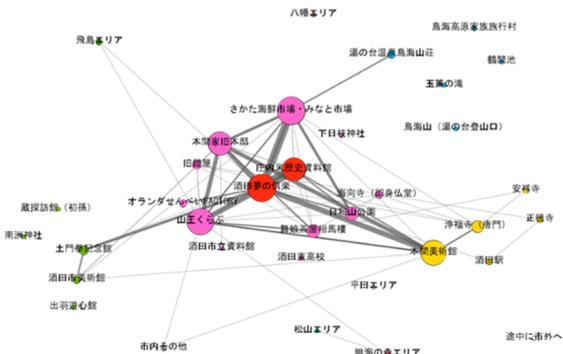
(2) 1人：成人女性のみ



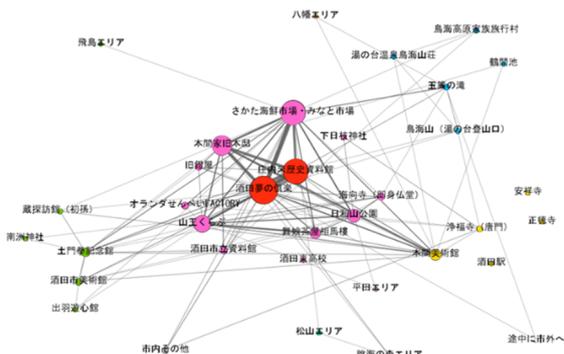
(3) 2人以上：成人男性のみ



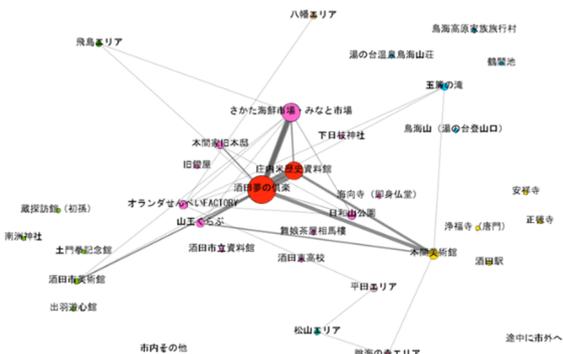
(4) 2人以上：成人女性のみ



(5) 2人以上：成人男女混合



(6) 子ども連れ家族



た自転車についても路線バスと同様である。一方で、観光バス・高速バスが平均訪問地点数の最下位となったのは、ツアー内容により行動範囲が制限されることが原因として考えられる。任意の2区分の平均値に対して Welch の t 検定を行うと、上位2区分の路線バス、自転車と、下位3区分の観光バス・貸切バス、自家用車または社用・公用車、タクシーとの間には、(それぞれから任意に1区分選んで比較しても) 訪問地点数の平均に有意な差があることが認められた。その他にも、最上位の路線バスはレンタカーおよび徒歩との間、また最下位の観光バス・貸切バスは自家用車または社用・公用車およびレンタカーとの間におい

図表 4-14 利用交通手段別の訪問地点数

市内の交通手段	該当者数	訪問地点数平均
徒歩	18	3.61
自転車	44	5.25
路線バス	27	5.70
観光バス・貸切バス	37	2.76
レンタカー	46	4.20
自家用車、社用・公用車	220	3.43
タクシー・ハイヤー	25	3.48
不明	4	3.50

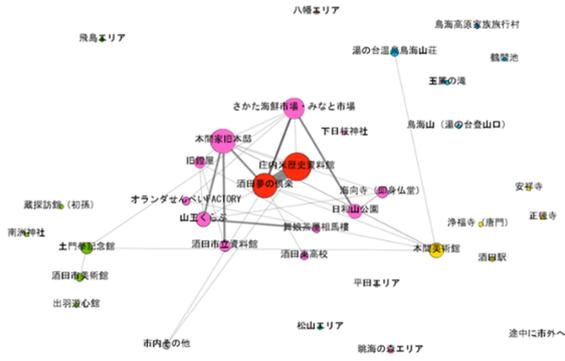
て平均に有意な差があることが確認された。

主な交通手段別の移動経路ネットワークを図表 4-15 に示す。各辺の太さおよび各点の大きさは、図表 4-5 と同様の調整を施した。

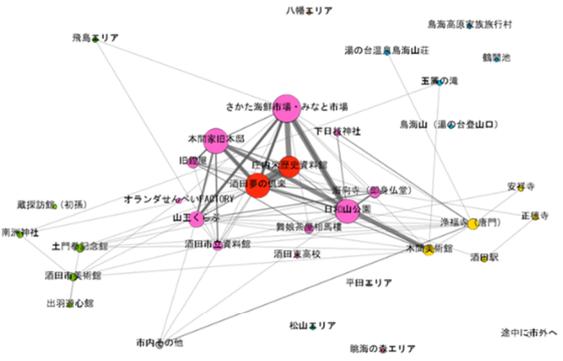
長距離移動が困難である徒歩においては、市街地エリア内の地点、特に山居倉庫（酒田夢の倶楽、庄内米歴史資料館）、さかた海鮮市場・みなと市場、本間家旧本邸、山王くらぶ、日和山公園に訪問割合が集中している。例外は若干あるものの、それらを除けば行動範囲は市街地エリア、駅前・寺町エリアに限られていることが見て取れる。自転車においては、最上川を越えて川南エリアを訪問する割合も増加する。市街地エリア内でも、本間家旧本邸やさかた海鮮市場・みなと市場や日和山公園への訪問割合が山居倉庫のそれと肩を並べるほどに高く、訪問地の分散化が見受けられる。その他、若干ながら鳥海山エリアや飛島エリアを訪れるケースも見られる。路線バスにおいては、サンプル数に加え平均での訪問地点数が多いこともあり、広範なエリアへの訪問傾向が見て取れる。飛島エリアに訪問するケースが他の区分よりも多いが、フェリーで飛島に訪問する際には公共交通機関である路線バスを利用している可能性が示唆される（この区分を含む一部の区分に分類された旅行者は、必ずしも1つの交通手段のみで移動しているとは限らず、徒歩、自転車、フェリーなども併用している場合がある点に注意されたい）。観光バス・貸切バスにおいては、先述した通りツアー内容によって行動範囲が狭められるため、山居倉庫の2地点、山王くらぶ、本間家旧本邸、本間美術館への移動が目立つ。レンタカーと自家用車または社用・公用車は、移動能力自体に大きな違いがないと考えられるが、結果として訪問傾向に大きな違いが得られた。レンタカーにおいては、主要な観光地に訪問地点が限られており、特に市街地エリア内の移動に集中していることが分かる。一方、自家用車においては市街地エリアの本間家旧本邸、山王くらぶ、舞娘茶屋相馬楼の訪問割合が相対的に小さい分、市街地エリア以外のエリアに訪問する傾向が見られる。このような差異は、利用者の傾向の違いによって説明することができる。自家用車で移動する旅行者は、近隣の地域から訪れる割合が高く酒田市内の地理に詳しい傾向がある上に、普段から自動車の運転に慣れており遠距離の移動も比較的苦に感じない可能性が高いため、多様な移動パターンが表れたものと考えられる。それに対し、レン

図表 4-15 利用交通手段別の移動経路ネットワーク

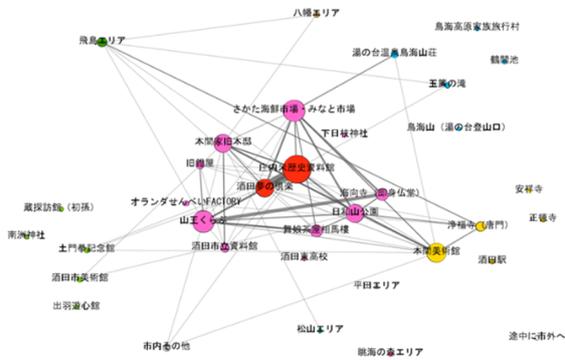
(1) 徒歩



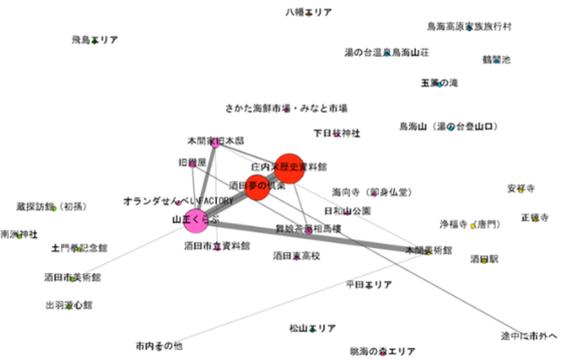
(2) 自転車



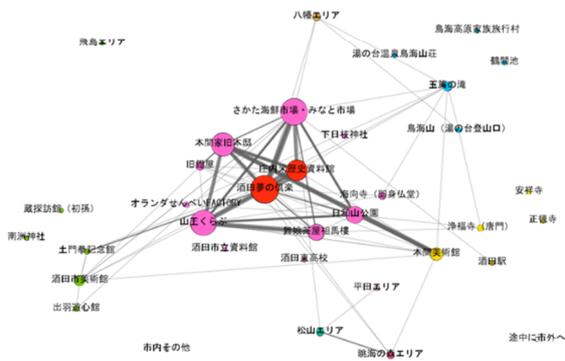
(3) 路線バス



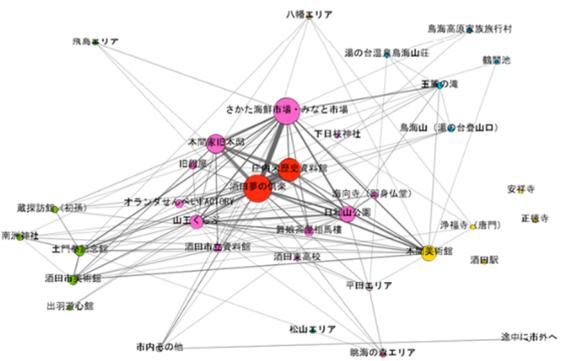
(4) 観光バス・貸切バス



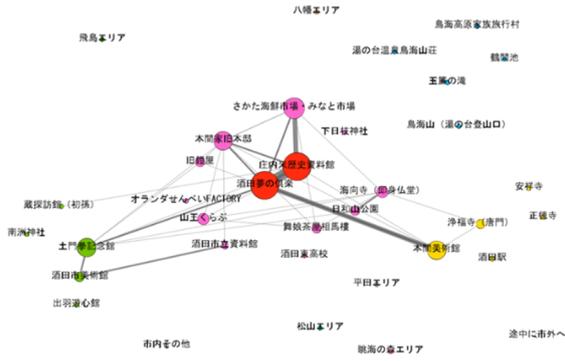
(5) レンタカー



(6) 自家用車または社用・公用車



(7) タクシー・ハイヤー



タクシーで移動する旅行者は、比較的土勘もなく運転にも慣れていない傾向があるだけでなく、レンタル期間内に返却をしなければならない時間的な制約があることから、主要な観光地に限定された移動パターンが見られたと考えられる。最後に、タクシーにおいては、希望の地点には難なく移動できる便利さから市街地エリア、駅前・寺町エリア、川南エリアの間の移動が活発であるが、金銭的費用が高いために長距離移動を要する他のエリアへの訪問は一切見られなかった。

#### 4. 8 最初に訪問する地点・最後に訪問する地点

ここまでは酒田市内での訪問ルートを見てきたが、本章の最後に酒田市への訪問に際して初めに訪問する地点、あるいは酒田市への訪問を終える際最後に訪問する地点にも注目しておきたい。

図表 4-16 は、回答者が各地点を酒田市内観光における最初の訪問地として選んだ割合を表している。酒田市外あるいは居住地から最初の訪問地点への移動は、左上の点から各地点への有向辺（矢印）で表現し、各地点の大きさおよび各地点に至る有向辺はその地点に最初に訪れた回答者の割合を表す。辺の重なりによって見にくくなることを考慮し、各辺には辺の終点（最初の訪問地点）と同じ色をつけた。

一見して明らかのように、最初の訪問地点として酒田夢の倶楽を選んだ回答者の割合が圧倒的に多い。この結果によれば、酒田市を訪れた旅行者の大多数はまず山居倉庫を訪れてから、他の訪問地点に移動していく傾向がうかがえ、山居倉庫がまさしく酒田市観光におけるハブとしての役割を持っていることが分かる。

他方、図表 4-17 は、回答者が各地点を酒田市内観光訪問における最後に訪問地として選んだ割合を示す。最後の訪問地点から酒田市外あるいは居住地への移動は、各点から酒田市外あるいは居住地を示す左上の点への有向辺（矢印）で表現し、各地点の大きさおよび各地点に至る有向辺はその地点を最後に訪れた回答者の割合を表す。辺の重なりによって見にくくなることを考慮し、各辺には辺の始点（最後の訪問地点）と同じ色をつけた。

先述した最初の訪問地と比べて、最後に訪問する地点はより分散的である。酒田夢の倶楽は最後の訪問地としても割合が高いが、庄内米歴史資料館、さかた海鮮市場・みなと市場なども酒田夢の倶楽と同程度の割合を占めている。これらの共通点を考えると、酒田市訪問の最後に山居倉庫とさかた海鮮市場・みなと市場へは土産物を買いに訪れた可能性が考えられる。これらの次に割合の高い地点は、本間美術館、土門拳記念館、本間家旧本邸、そして日和山公園である。本間美術館、土門拳記念館、本間家旧本邸は文化財や芸術品を数多く展示している観光施設であり、日和山公園は広い敷地内に歴史的遺物が点在していることから、時間を気にすることなく堪能したい旅行者はこれらの観光地点を最後に訪れる傾向があるものと考えられる。



## 5 離散選択モデルに基づく回帰分析

本章では、酒田市へ観光を訪れる人々の行動や属性が酒田市への満足度にどのような影響を与えるのかを、離散選択モデルに基づいて分析する。

### 5.1 モデル

現実の個人の選択は連続的なものよりむしろ離散的なものが多く、本受託研究におけるアンケート調査でも回答者はいくつかの選択肢の中から1つ以上を選択することが求められている。とりわけ、酒田市への旅行の満足度は4段階評価の中から最も自分の気持ちに近い選択肢を選ぶものとなっており、これは順序を持つ離散選択モデルとして表現することができる。本節では、Train (2009) に基づき、モデルの概要を説明する。

個人が旅行から得る効用 $U$ が次のように表されるとする。

$$U = \beta'X + \varepsilon$$

ここで、 $X$ は個人の効用に影響を与える観察可能な要因のベクトル、 $\beta$ はその要因にかかる係数のベクトル、 $\varepsilon$ は個人の効用に影響を与える観察不可能な確率変数である。個人の効用水準は実際に観測することのできない潜在変数であるが、これを用いて離散的な選択を定式化することは可能である。個人の効用水準がある閾値 $v_1$ を上回るならば「たいへん満足している」と回答し、効用水準が $v_1$ を下回るが閾値 $v_2$ を上回るならば「満足している」と回答する。同様に考えると、満足度の選択は次のように表すことができる。

回答 = 「たいへん満足している」 if  $U > v_1$

回答 = 「満足している」 if  $v_1 \geq U > v_2$

回答 = 「不満である」 if  $v_2 \geq U > v_3$

回答 = 「たいへん不満である」 if  $v_3 \geq U$

個人が「たいへん満足している」と回答する確率は

$$\begin{aligned} \Pr(U > v_1) &= \Pr(\beta'X + \varepsilon > v_1) \\ &= \Pr(\varepsilon > v_1 - \beta'X) \\ &= 1 - \Pr(\varepsilon \leq v_1 - \beta'X) \end{aligned}$$

となり、「満足している」と回答する確率は

$$\begin{aligned} \Pr(v_1 \geq U > v_2) &= \Pr(v_1 \geq \beta'X + \varepsilon > v_2) \\ &= \Pr(v_1 - \beta'X \geq \varepsilon > v_2 - \beta'X) \\ &= \Pr(\varepsilon \leq v_1 - \beta'X) - \Pr(\varepsilon \leq v_2 - \beta'X) \end{aligned}$$

となる。したがって、 $\varepsilon$ の分布によって選択確率が決まることになる。

観察不可能な $\varepsilon$ が標準正規分布に従うと想定した場合、このモデルは順序プロビットモデルと呼ばれ、「たいへん満足している」、「満足している」と回答する確率はそれぞれ

$$\Pr(U > v_1) = 1 - \Phi(v_1 - \beta'X)$$

$$\Pr(v_1 \geq U > v_2) = \Phi(v_1 - \beta'X) - \Phi(v_2 - \beta'X)$$

で計算することができる。ここで、 $\Phi(\cdot)$ は標準正規分布関数である。「不満である」、「たいへん不満である」と回答する確率も同様に導出できる。係数 $\beta$ と閾値 $v_1, \dots, v_4$ を最尤法で推定し、その統計的有意性を検定することによって、観察可能な要因 $X$ が満足度に与える影響を調べる。

## 5. 2 変数の説明

被説明変数には酒田市への満足度を用いた。この変数は、「たいへん満足している」と回答している場合には4、「満足している」と回答している場合には3、「不満である」と回答している場合には2、「たいへん不満である」と回答している場合には1をとる。

酒田市を観光した回答者の行動を表す変数として、酒田市内の各エリアに訪問したかどうか、酒田市内のみの観光であったかどうか、酒田市に宿泊したかどうか（酒田市の泊数が正の数であるかどうか）、一人旅であったかどうかを、それぞれダミー変数として用いた。たとえば、市街地エリア訪問ダミーは、調査票Q7において市街地エリアの観光地のいずれかを訪れたと回答している場合には1、市街地エリアの観光地をまったく訪れていないと回答している場合には0をとる変数である。

また、酒田市における1人・1日あたり支出額も回答者の行動を表す変数として用いた。3.3節で示した、宿泊代、飲食費、買物代、入場料・拝観料、その他（体験費用等）の1人・1日あたりの金額を用いている。

回答者の属性を表す変数として、性別、年齢、世帯年収を用いた。性別については、回答者が女性であれば1、男性であれば0をとるダミー変数とした。年齢については回答者の年齢層の中間値を、世帯年収については回答者の年収の幅の中間値をそれぞれ用いた。また、2020年度に特有の変数として、GoTo トラベルキャンペーンを利用したかどうかを表すダミー変数を用いた。

すべての変数の記述統計は図表 5-1 の通りである。酒田市を訪れた人のほとんどが市街地エリアの観光地を訪れているのに対し、それ以外のエリアにはあまり行っていない。また、6割強の人が1回の旅行で酒田市以外の地域にも訪れており、酒田市を観光した人の約半数は日帰り客であることがうかがえる。

ツアーパックを利用して旅行した人は約4割である。3.3節で述べたように、酒田市における1人・1日あたり支出額はツアーパックの場合とそうでない場合で意味合いがやや異なることから、ツアーパックを利用した人とそうでない人でサンプルを分けて推定を行う。

なお、酒田市内に宿泊していないと回答しているにもかかわらず、酒田市における宿泊代を正の値で記入している人（2名）はサンプルから除外した。

図表 5-1 回帰分析に用いた変数の記述統計

	観測数	平均	標準偏差	最小値	最大値
酒田市に対する満足度	450	3.30	0.54	1	4
酒田市内エリア訪問ダミー					
市街地エリア	419	0.95	0.22	0	1
駅前・寺町エリア	419	0.30	0.46	0	1
川南エリア	419	0.20	0.40	0	1
鳥海山エリア	419	0.08	0.27	0	1
八幡エリア	419	0.02	0.15	0	1
眺海の森エリア	419	0.02	0.13	0	1
松山エリア	419	0.01	0.12	0	1
平田エリア	419	0.02	0.15	0	1
飛島エリア	419	0.02	0.14	0	1
ツアーパックの場合(ダミー)	459	0.39	0.49	0	1
酒田市内のみの観光(ダミー)	460	0.37	0.48	0	1
酒田市に宿泊した(ダミー)	420	0.51	0.50	0	1
一人旅(ダミー)	457	0.24	0.43	0	1
1人・1日あたり支出額(千円)					
宿泊代	332	2.37	3.61	0	25
飲食費(昼)	332	0.83	1.02	0	9
飲食費(夜)	332	0.84	1.69	0	13.5
買物代	332	1.56	2.16	0	20
入場料・拝観料	332	0.42	0.77	0	8
その他(体験費用等)	332	0.08	0.60	0	7
女性(ダミー)	402	0.52	0.50	0	1
年齢(歳)	446	56.73	15.52	5	85
世帯年収(万円)	442	527.04	330.02	0	1200
GoToトラベルキャンペーンを利用した(ダミー)	448	0.75	0.43	0	1

### 5. 3 分析結果と含意

サンプル全体を用いて、順序プロビットモデルで推定した結果が図表 5-2 に示されている。(1)列は支出額に関する変数を除いた結果、(2)列は(1)列の説明変数群に GoTo トラベルキャンペーン利用ダミーを加えた結果、(3)列は(1)列の説明変数群に酒田市における 1 人・1 日あたり支出総額を加えた結果である。

図表 5-2 酒田市への満足度に与える影響の推定結果（全体）

	(1)	(2)	(3)
	酒田市に対する満足度		
酒田市内エリア訪問ダミー			
市街地エリア	0.112 (0.283)	0.172 (0.279)	0.267 (0.302)
駅前・寺町エリア	0.0788 (0.153)	0.0732 (0.153)	0.00994 (0.186)
川南エリア	-0.223 (0.161)	-0.249 (0.162)	-0.246 (0.186)
鳥海山エリア	0.0544 (0.275)	0.0671 (0.274)	0.171 (0.318)
八幡エリア	0.192 (0.393)	0.251 (0.395)	0.432 (0.459)
眺海の森エリア	1.206** (0.615)	1.247** (0.623)	0.797 (0.802)
松山エリア	-0.462 (0.411)	-0.531 (0.409)	-0.505 (0.596)
平田エリア	-0.865* (0.445)	-0.908* (0.475)	-0.602 (0.597)
飛島エリア	-0.417 (0.421)	-0.373 (0.400)	-0.273 (0.435)
酒田市内のみの観光	-0.0433 (0.145)	-0.119 (0.153)	-0.0845 (0.177)
酒田市に宿泊した	0.0625 (0.147)	0.109 (0.149)	-0.0573 (0.247)
一人旅	0.187 (0.168)	0.201 (0.169)	0.103 (0.192)
1人・1日あたり支出額			
宿泊代			0.0252 (0.0330)
飲食費(昼)			0.0191 (0.0900)
飲食費(夜)			0.0558 (0.0510)
買物代			-0.00920 (0.0400)
入場料・拝観料			0.168 (0.124)
その他(体験費用等)			0.0985 (0.107)
GoToトラベルを利用した		-0.294* (0.161)	
サンプルサイズ	334	334	271
擬似決定係数	0.0389	0.0445	0.0387

(注)すべてのモデルに、女性ダミー、年齢、世帯年収が含まれている。カッコ内は頑健な標準誤差である。\*\*\*, \*\*, \* はそれぞれ、1%、5%、10%の水準で有意であることを示す。

図表 5-3 酒田市への満足度に与える影響の推定結果（ツアーパックの場合）

	(4)	(5)	(6)
	酒田市に対する満足度		
酒田市内エリア訪問ダミー			
市街地エリア	0.579** (0.285)	0.597** (0.282)	0.301 (0.522)
駅前・寺町エリア	0.0106 (0.277)	-0.0109 (0.284)	0.487 (0.469)
川南エリア	-0.228 (0.294)	-0.266 (0.313)	-0.601 (0.400)
鳥海山エリア	-0.269 (0.460)	-0.237 (0.463)	0.404 (0.641)
八幡エリア	-1.246*** (0.397)	-1.178*** (0.418)	
眺海の森エリア	4.857*** (0.443)	5.073*** (0.448)	
松山エリア	-0.250 (0.330)	-0.214 (0.347)	1.657 (1.187)
平田エリア	-1.534*** (0.478)	-2.093*** (0.554)	-2.206*** (0.662)
飛島エリア	-1.003*** (0.364)	-0.663 (0.411)	-0.757 (0.573)
酒田市内のみの観光	-0.260 (0.267)	-0.389 (0.275)	-0.588 (0.430)
酒田市に宿泊した	0.0803 (0.327)	0.163 (0.331)	-1.016* (0.612)
一人旅	0.0988 (0.289)	0.0730 (0.303)	-0.311 (0.503)
1人・1日あたり支出額			
宿泊代			0.233** (0.0994)
飲食費(昼)			-0.613** (0.281)
飲食費(夜)			0.00251 (0.127)
買物代			0.0610 (0.102)
入場料・拝観料			0.806** (0.347)
その他(体験費用等)			3.380*** (1.213)
GoToトラベルを利用した		-0.790** (0.342)	
サンプルサイズ	107	107	66
擬似決定係数	0.0809	0.108	0.274

(注)すべてのモデルに、女性ダミー、年齢、世帯年収が含まれている。モデル(6)では共線性のため、八幡エリア訪問ダミーと眺海の森エリア訪問ダミーは除外されている。カッコ内は頑健な標準誤差である。\*\*\*, \*\*, \* はそれぞれ、1%、5%、10%の水準で有意であることを示す。

図表 5-4 酒田市への満足度に与える影響の推定結果（ツアーパックでない場合）

	(7)	(8)	(9)
	酒田市に対する満足度		
酒田市内エリア訪問ダミー			
市街地エリア	-0.0150 (0.352)	-0.0280 (0.356)	-0.0421 (0.389)
駅前・寺町エリア	0.182 (0.195)	0.185 (0.195)	0.187 (0.224)
川南エリア	-0.275 (0.209)	-0.272 (0.209)	-0.212 (0.221)
鳥海山エリア	0.251 (0.329)	0.250 (0.329)	0.340 (0.351)
八幡エリア	0.368 (0.434)	0.359 (0.439)	0.348 (0.447)
眺海の森エリア	0.937 (0.756)	0.925 (0.756)	0.467 (0.859)
松山エリア	-0.384 (0.591)	-0.367 (0.596)	-0.354 (0.830)
平田エリア	-0.979* (0.595)	-0.979* (0.591)	-0.574 (0.735)
飛島エリア	-0.0975 (0.562)	-0.0943 (0.565)	-0.155 (0.590)
酒田市内のみの観光	0.183 (0.191)	0.200 (0.212)	-0.0225 (0.215)
酒田市に宿泊した	0.0130 (0.182)	0.00378 (0.185)	0.238 (0.283)
一人旅	0.255 (0.222)	0.253 (0.222)	0.181 (0.230)
1人・1日あたり支出額			
宿泊代			-0.0178 (0.0354)
飲食費(昼)			0.156 (0.105)
飲食費(夜)			0.0594 (0.0609)
買物代			0.0348 (0.0508)
入場料・拝観料			-0.0969 (0.143)
その他(体験費用等)			0.0607 (0.120)
GoToトラベルを利用した		0.0471 (0.205)	
サンプルサイズ	227	227	205
擬似決定係数	0.0387	0.0389	0.0443

(注)すべてのモデルに、女性ダミー、年齢、世帯年収が含まれている。カッコ内は頑健な標準誤差である。\*\*\*, \*\*, \* はそれぞれ、1%、5%、10%の水準で有意であることを示す。

(1)列、(2)列の結果によれば、眺海の森エリア訪問ダミーが正で有意であり、このエリアの観光地を訪問した人の満足度が高い。一方で、平田エリア訪問ダミーは負で有意となっている。また、GoTo トラベルキャンペーンの利用は負で有意であり、満足度が低い。しかし、(3)列から、支出額について有意な結果は得られなかった。

図表 5-3 は、ツアーパックを利用して旅行した人のみのサンプルを用いた推定結果である。(4)列、(5)列の結果によれば、市街地エリア訪問ダミーと眺海の森エリア訪問ダミーが正で有意であり、これらのエリアの観光地を訪問した人の満足度が高い。一方で、八幡エリア訪問ダミー、平田エリア訪問ダミーは負で有意となっている。ツアーパックの旅行者は自家用車とともに観光バス・貸切バスを主要な交通手段として利用している。したがって、ツアーパックでない旅行者に比べれば、あらかじめ決められたルートを旅行する傾向があると考えられる。そのような人は、酒田市における主要な観光地を巡り、酒田市に満足して帰ることが示唆される。

(6)列から、宿泊代、入場料・拝観料、その他（体験費用等）が正で有意となっており、パック代金に追加してこれらに多くの支出をした人ほど満足度が高い。一方、酒田市に宿泊したかどうかを表すダミー変数は負で有意となり、酒田市を日帰りで訪れた人に比べて宿泊した人の方が満足度は低くなるという結果が得られた。この結果は支出額の変数を説明変数に加えないモデル(4)、(5)では得られず、宿泊ダミーの係数は有意ではないもののむしろ正である。このことから、(4)、(5)ではパック代金に上乗せして宿泊代を支出したことが満足度を引き上げる効果が、宿泊ダミーが満足度に与える影響の中に含まれており、市内に宿泊すること自体は旅行者の満足度を引き下げてしまうことを示唆する。

一方で、昼食代に多くの支出をした人ほど満足度が低いという結果となった。ツアーパックの旅行者の多くがある程度決められたルートで旅行する傾向にあること、旅行者のほとんどが市街地を訪問していることを総合して考えれば、ツアーパックの旅行者は昼食の選択肢が限定されていることに不満を感じている可能性がある。

ツアーパックを利用せずに旅行した人のみのサンプルを用いた推定結果は図表 5-4 に示している。ツアーパックでない場合には、いずれの変数においても統計的に有意な結果は得られなかった。これは、旅行者の行動パターンが多様であることが影響しているためであると考えられる。

酒田市の観光施策を考えるうえでは、複数年度で分析結果を比較する必要があるが、本年度の結果と昨年度の結果を単純に比較することには注意が必要である。なぜなら、本年度は新型コロナウイルス感染症という外的ショックと、GoTo トラベルキャンペーンという政策介入があり、その両方が旅行者の行動に影響を与えていると考えられるからである。昨年度に比べて酒田市を観光する旅行者のタイプそのものが変化した可能性もあり、こうした点を明らかにするためには追加的な調査が必要になる。

## 6 まとめ

4章では、全回答者および年齢別、世帯年収別、同行グループ構成別、主な交通手段別での訪問地点数と訪問傾向について、前者は平均値を用い、後者は移動経路パターンをネットワークとして表現する手法を用いて分析した。また、5章では、回答者の観光地の訪問や消費支出、回答者の属性が酒田市に対する満足度に与える影響について、離散選択モデルに基づいた計量分析を行った。これらの分析で得られた結果を以下にまとめていく。

まず一つは、山居倉庫の役割についてである。山居倉庫がハブとしての役割を持ち、酒田市内の観光における重要な拠点となっていることはこれまでの調査においても指摘されてきたが、今年度においても同様の結果が得られ、この仮説が事実として揺るぎないものとなりつつある。さらには、2020年11月に国の文化審議会が文部科学大臣に山居倉庫を国史跡として指定する旨の答申を行っており、今後正式に指定されることで山居倉庫への注目度はより一層増すと予想される。

とはいえ、山居倉庫は観光の拠点としてさらなる利用価値を秘めている可能性はある。たとえば、酒田市の観光においてはグルメが主要素の一つであるが、現在山居倉庫には飲食店が数店舗あるのみであり、酒田市内の食の魅力を存分に感じるには物足りない感があるかもしれない。そこで、現在の飲食スペースをいくつかの飲食店で共有するフードコートとして利用するといった形で、酒田市内の名物といわれるようなものを存分に堪能できるようにすれば、山居倉庫の付加価値をさらに上げることができるであろう。このように、新たな要素の追加、あるいは、既存の要素の強化によって、山居倉庫がより一層の活気を得、その効果が市内全域の観光地点に波及していくことが期待される。

4章と5章で示した結果からは、酒田市内の観光全体での利点や欠点を垣間見ることができた。該当する主な結果をまとめると、

- 若年層（0～29歳）の訪問する地点数は少ないが、それ以外の世代においては訪問地点数に違いが見られない（図表 4-4、図表 4-5、図表 4-8、図表 4-9）。
- 子どもを含む家族の訪問地点の数が少なく、移動パターンも限定的である（図表 4-6、図表 4-7、図表 4-14、図表 4-15）。
- 世帯年収が上がるごとに訪問地点数が増加する傾向があるが、700万円以上という高い世帯年収の区分になると訪問地点が著しく少なく訪問先も主要地点に限られてしまう（図表 4-10、図表 4-11）。
- 成人男性のみのグループは、成人女性と混合した場合と比べて訪問地点数が多い（図表 4-12、図表 4-13）
- 1人の場合と2人の場合とに関わらず、成人女性（のみ）は成人男性（のみ）と比べて移動のパターンが限定的である（図表 4-12、図表 4-13）。
- 眺海の森エリアを訪れた人の満足度は高い（図表 5-2、図表 5-3）。
- ツアーパックを利用した場合、眺海の森エリアに加え、市街地エリアを訪れた人の満

満足度は高い（図表 5-3）。

- ツアーパックを利用した場合、パック代金に上乗せして、入場料・拝観料に多く支出した人の満足度は高く、昼食代に多く支出した人の満足度は低い（図表 5-3）。
- ツアーパックを利用した場合、宿泊した人の満足度は低い（図表 5-3）。

などの点が挙げられる。

とりわけ、宿泊した人の満足度が低いことは、昨年度の分析と同様であった。昨年度の繰り返しとなるが、観光業の振興と市民所得の向上の観点から、宿泊を通して満足度が向上するような施策を講じる必要性が改めて確認された。点在している観光地をつなげて複数日を費やす価値のある観光ルートを紹介するなど、酒田市の魅力を存分に堪能できる情報を積極的に発信していくべきであると考えられる。市内観光に関する情報の発信基地としても、山居倉庫を有効に活用する必要がある。大多数の旅行者が山居倉庫を酒田市内観光の出発点としているのであれば、山居倉庫でまず市内観光に関する情報を流すことが最も宣伝効果が見込まれる。

上記の点とは別に、今年度の調査においては山王くらぶへの訪問割合の上昇が顕著であったことも特筆すべき事項である。4章での分析によると、観光バスや貸切バスでの訪問が多く、ツアー内容に新たに組み込まれたことが考えられるが、比較的年配で世帯年収の高い層、また 2 人以上の女性のみで構成されたグループの訪問割合が高いことが分かる。訪問割合を今後維持していくためには、これらの条件に該当する人をターゲットとした宣伝活動に加え、そのような人々以外の興味を引くことのできるようなアピールが必要であると考えられる。近年においては Facebook、Twitter、Instagram などの SNS も宣伝媒体として主流の一つとなっており、利用の方法次第では特に若年層に向けて宣伝する手段として非常に有効である。酒田市も主要な SNS においてアカウントを開設しており、これらを十分に活用し旅行者の増加につなげる施策を講じる必要がある。

上記の結果を政策決定に反映させるには、やはりサンプルサイズがまだまだ不足しているといわざるを得ない。今回やこれまでの調査で得られた結果を事実として裏付けるためには、今後も引き続き実態調査や効果測定を積み重ねていく必要がある。また、分析に関しても、旅行者の様々な傾向をアンケートデータから抽出する方法を今後も検討していくべきである。

参考文献

- Train, Kenneth E. (2009) *Discrete Choice Methods with Simulation*, Second Edition, Cambridge University Press.
- Welch, B. L. (1947) “The generalization of “Student’s” problem when several different population variances are involved,” *Biometrika* 34 (1–2): 28–35.